



サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2013 年冬のボーナスと 家計の実態調査

～“わが家の生活防衛策”第 27 弾～

2014 年 1 月

<Part 2 >



損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社

目 次

■調査概要 1

■調査結果 4

I わが家の家計

1. 現状で、家計は苦しいと感じるか	5
2. 今後の家計の見通し	7
3. 家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出	9
4. 「金融資産の残高」の増減	10

II わが家の生活防衛策

1. 日頃よく利用している「節約食材」	13
2. 消費税増税は、家計や消費生活に影響があると思うか	15
3. 消費税増税にどのように対応しようと思っているか	17
4. 消費税増税の実施前に、駆け込みで買っておきたいと思うものとその金額	19

III 夫に内緒の資産

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況	20
2. 『夫に内緒の資産』の保有額	22
3. 『夫に内緒の資産』を持つ目的	24
4. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか	26
5. 『夫に内緒の資産』の増減	28
6. 『夫に内緒の資産』の保有形態について	31
7. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し	33

IV 「おもてなし」したい人

1. 現在、心をこめて「おもてなし」したいと思っている人はいるか	36
2. どのように「おもてなし」したいか	38

V 「ソチ五輪」で応援したい選手・チーム

1. 「ソチ五輪」で日本選手の活躍を期待する種目	39
2. 「ソチ五輪」で応援したいと思う選手（チーム）	40

調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002年3月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

27回目となる今回は、2013年冬に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦500名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

なお、このPart2は、昨年の12月に冬のボーナスに関わる項目に絞って作成したPart1に次いで、家計の実態調査などの項目に関する結果をまとめたものです。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の20歳から59歳の主婦500人

<サンプル配分>

合計	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

平成25年12月7日（土）～12月10日（火）

(4) 調査項目

- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出
- ・家庭の金融資産の増減
- ・日頃利用している「節約食材」と「自慢の節約料理」
- ・消費税増税が家計や消費生活に与える影響と、それに対する対処
- ・夫に内緒の資産保有について
- ・おもてなしをしたい人
- ・ソチ五輪で日本選手の活躍を期待する種目、応援したい選手（チーム）

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位=%）

F1. 年齢

（平均：39.7歳）

サンプル数	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳
500	9	116	62	63	71	54	88	37
100.0	1.8	23.2	12.4	12.6	14.2	10.8	17.6	7.4

F2. 職業

サンプル数	正規有職	パート	専業主婦
500	84	122	294
100.0	16.8	24.4	58.8

F3. 夫の年代

サンプル数	20代	30代	40代	50歳以上
500	80	147	133	140
100.0	16.0	29.4	26.6	28.0

F4. 夫の勤務先での役職

サンプル数	役職なし	係長・主任クラス	課長クラス	部長クラス以上
500	229	121	100	50
100.0	45.8	24.2	20.0	10.0

F5. 夫の勤務先の業種

サンプル数	水産・農林・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業	金融・不動産・サービス業
500	2	42	233	23	49	48	103
100.0	0.4	8.4	46.6	4.6	9.8	9.6	20.6

F6. 世帯構成

サンプル数	夫婦のみ	夫婦と子	3世代同居(4世代同居を含む)	親夫婦と子夫婦・あなたの方夫婦と親	その他
500	155	292	34	15	4
100.0	31.0	58.4	6.8	3.0	0.8

F7. 扶養中の子どもはいるか

サンプル数	いる	いない
500	275	225
100.0	55.0	45.0

F8. 住まいの形態

サンプル数	一戸建て 持ち家	一戸建て 借家	分譲 集合住宅	賃貸 集合住宅	社宅・ 寮
500	230	7	109	129	25
100.0	46.0	1.4	21.8	25.8	5.0

F9. 現在住宅ローンがあるか

サンプル数	ある	ない
500	234	266
100.0	46.8	53.2

F10. 世帯年収(税込み)

サンプル数	400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000万円以上
500	46	164	116	83	91
100.0	9.2	32.8	23.2	16.6	18.2

F11. 居住地

サンプル数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
500	9	14	238	84	102	21	5	27
100.0	1.8	2.8	47.6	16.8	20.4	4.2	1.0	5.4

調查結果

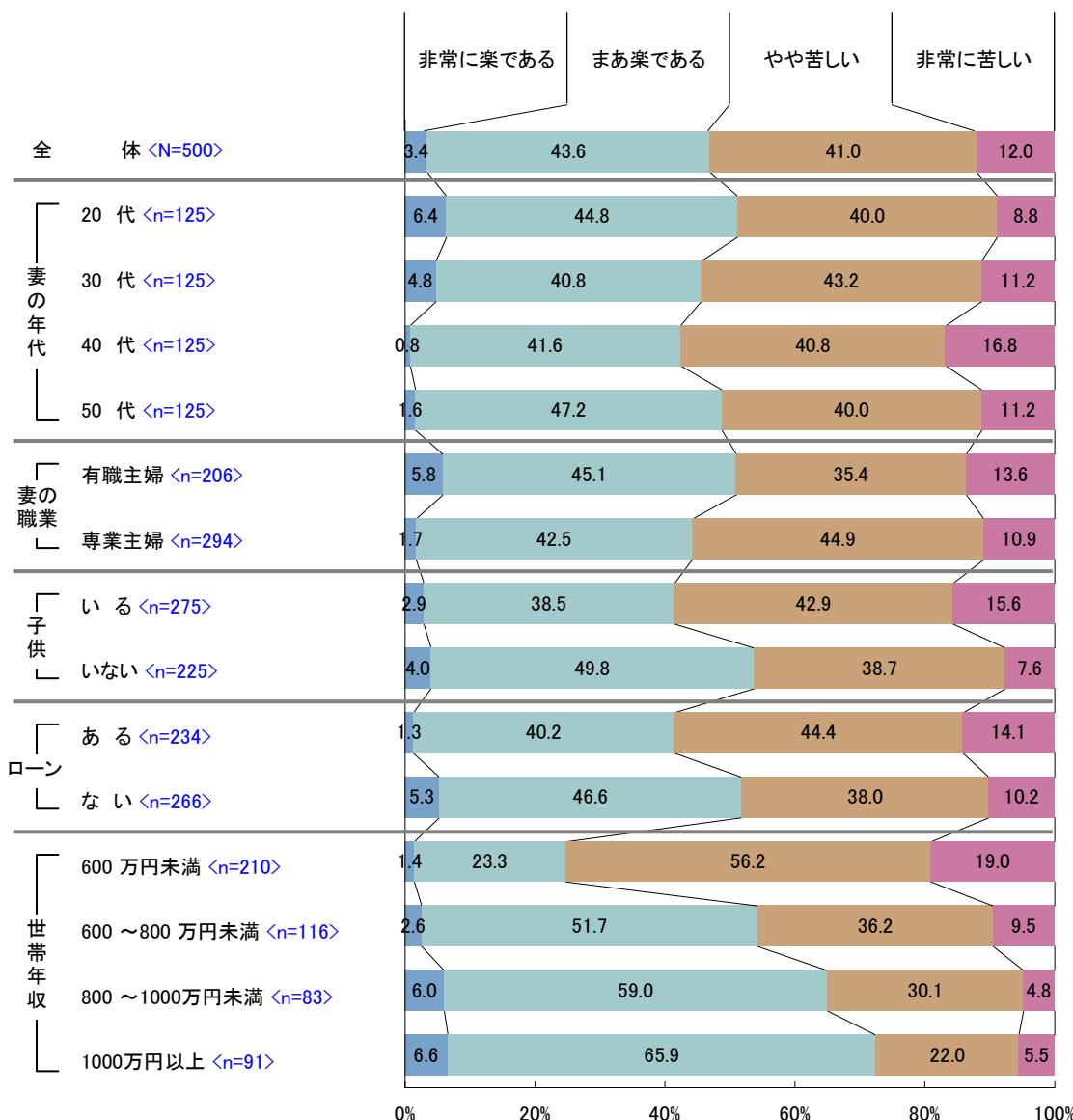
I わが家の家計

1. 現状で、家計は苦しいと感じるか

“苦しい”(53.0%)の方が“楽である”(47.0%)よりも多く、依然として“厳しい”という認識が強い。

※“苦しい”は、「やや苦しい」「非常に苦しい」の合計、“楽である”は、「まあ楽である」「非常に楽である」の合計を表します。

図 1. 現状で、家計は苦しいと感じるか



現状で、家計は苦しいと感じるかどうかを聞いたところ、「非常に楽である」(3.4%)、「まあ楽である」(43.6%)を合わせた“楽である”(47.0%)という人よりも、「やや苦しい」(41.0%)、「非常に苦しい」(12.0%)を合わせた“苦しい”(53.0%)の方がやや多く、依然として家計は苦しい状態が続いているようです。

- ・妻の年代別にみると、“苦しい”の割合は年代が上がるほど高い傾向があり、《20代》(48.8%)の半数弱に比べ、《40代》では57.6%となっていますが、《50代》(51.2%)になると逆に少なくなっています。
- ・妻の職業別にみると、《有職主婦》では“楽である”(51.0%)と“苦しい”(49.0%)がほぼ同じ割合ですが、《専業主婦》では“楽である”(44.2%)よりも“苦しい”(55.8%)の方が10ポイント以上高く、共働きでない家庭は生活が苦しい傾向が強くなっています。
- ・独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、“苦しい”の割合は、独立していない子供が《いる》(58.5%)の方が《いない》(46.2%)よりも10ポイント以上高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、“苦しい”という認識は、ローンが《ある》(58.5%)の方がやはり高く、《ない》(48.1%)よりも約10ポイント高くなっています。

■昨冬の調査結果との比較■

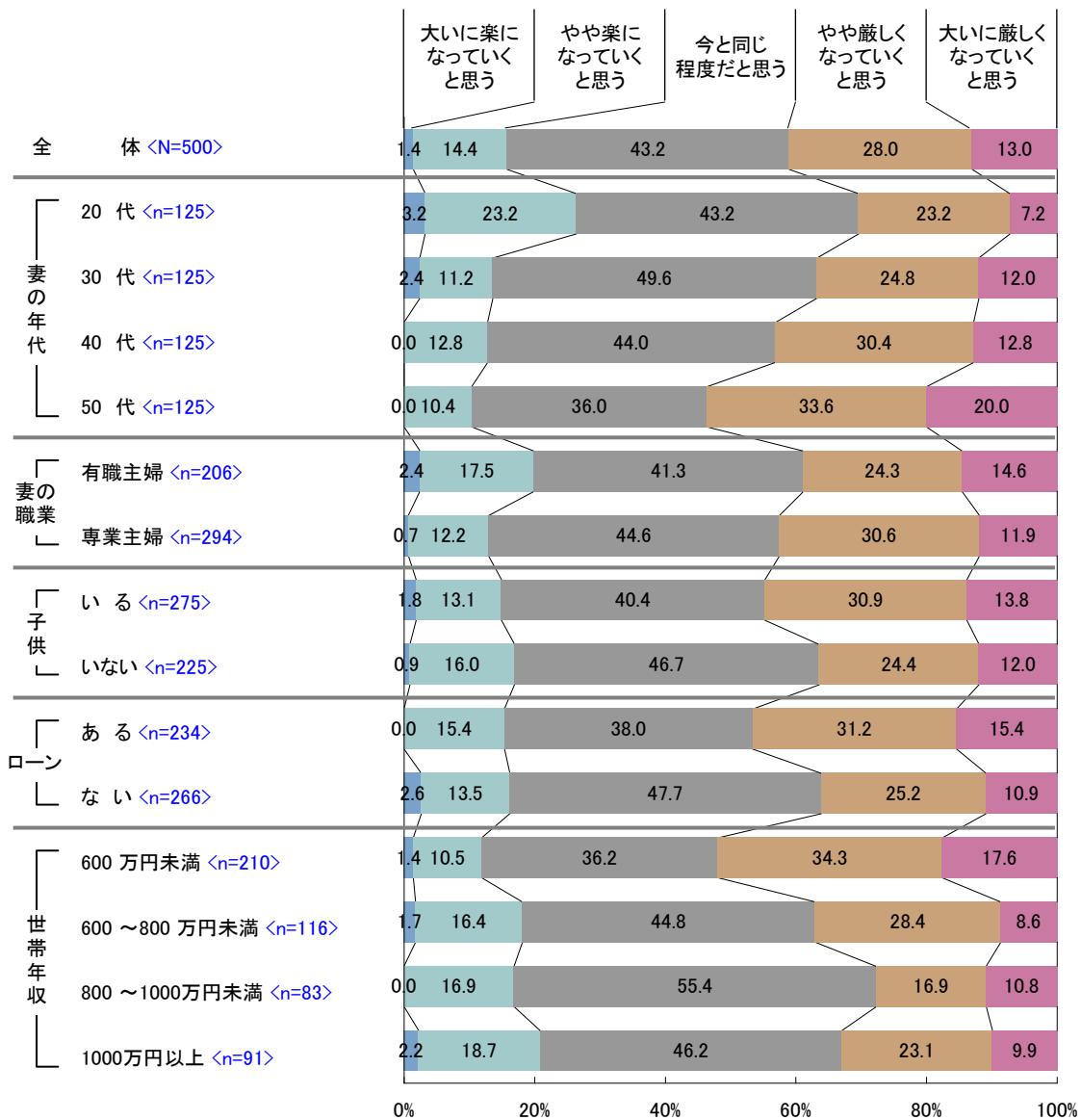
昨冬の調査結果と比べると、“楽である”(44.6%→47.0%)がやや増え、“苦しい”(55.4%→53.0%)がやや減っており、わずかではありますが、家計の状況は改善しているようです。

2. 今後の家計の見通し

“厳しくなっていく”(41.0%)が4割強を占め、“楽になっていく”(15.8%)は1割台にとどまる。

※“厳しくなっていく”は、「やや厳しくなっていくと思う」「大いに厳しくなっていくと思う」の合計、“楽になっていく”は、「やや樂になっていくと思う」「大いに樂になっていくと思う」の合計を表します。

図 2. 今後の家計の見通し



次に今後の家計の見通しを聞いたところ、「大いに樂になっていくと思う」(1.4%)、「やや樂になっていくと思う」(14.4%)を合わせた“樂になっていく”(15.8%)は1割台にとどまり、「やや厳しくなっていくと思う」(28.0%)、「大いに厳しくなっていくと思う」(13.0%)を合わせた“厳しくなっていく”(41.0%)という方がはるかに多くなっています。また、「今と同じ程度だと思う」(43.2%)は4割台で、今後の家計の見通しについては厳しい見方が多い結果となっています。

- ・妻の年代別にみると、年代が上がるほど厳しいとみており、“厳しくなっていく”的割合は《20 代》(30.4%)、

《30代》(36.8%) では3割台ですが、《50代》(53.6%) では半数を超えていきます。

- ・妻の職業別では《有職主婦》よりも《専業主婦》の方が、独立していない子供（扶養中の子供）の有無別では《いない》人よりも《いる》人の方が、住宅ローンの有無別では《ない》人よりも《ある》人の方が、それぞれ“厳しくなっていく”という割合が高く、また世帯年収別では年収が低い人ほど“厳しくなっていく”割合は高くなっています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、“楽になっていく”(15.2%→15.8%)、“厳しくなっていく”(43.6%→41.0%)といずれもわずかな変化で、前項の“家計の現状”と同じくわずかに改善の兆しはあるものの、まだまだ厳しい状況は続くという見通しが主になっています。

3. 家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出

第一に「子供の教育費」(154 件)を削りたくないが、「旅行・レジャー費」(107 件)といった楽しみや、「食費」(106 件)、「外食費」(36 件)、「娯楽・教養費(新聞、書籍など)」(29 件)なども削りたくない。

表 1. 家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出

順位		件数
1	子供の教育費	154
2	旅行・レジャー費	107
3	食費	106
4	外食費	36
5	娯楽・教養費(新聞、書籍など)	29
6	美容費(エステ、化粧品など)	19
7	趣味にかかる費用	17
8	服飾・衣料費	15
9	交際費	7
10	通信費(携帯、インターネットなど)	7
11	帰省する交通費	6
12	医療費	5
	車・バイクの維持費	5
	コンサート・スポーツ鑑賞費	5
	スポーツにかける費用	5
	貯金	5
	ペットにかかる費用	5

前述のように家計の現状を“苦しい”と感じている主婦が過半数を占めていますが、ここでは家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出を具体的にあげてもらいました。

最も多かったのは「子供の教育費」(154 件)で、以下「旅行・レジャー費」(107 件)、「食費」(106 件)、「外食費」(36 件)、「娯楽・教養費(新聞、書籍など)」(29 件)などが続いています。

家計が“苦しい”からといって、「子供の教育費」だけは削りたくない・お金をかけたいと考える人が多いようです。しかし、「旅行・レジャー費」といった“楽しみ”も忘れないようです。

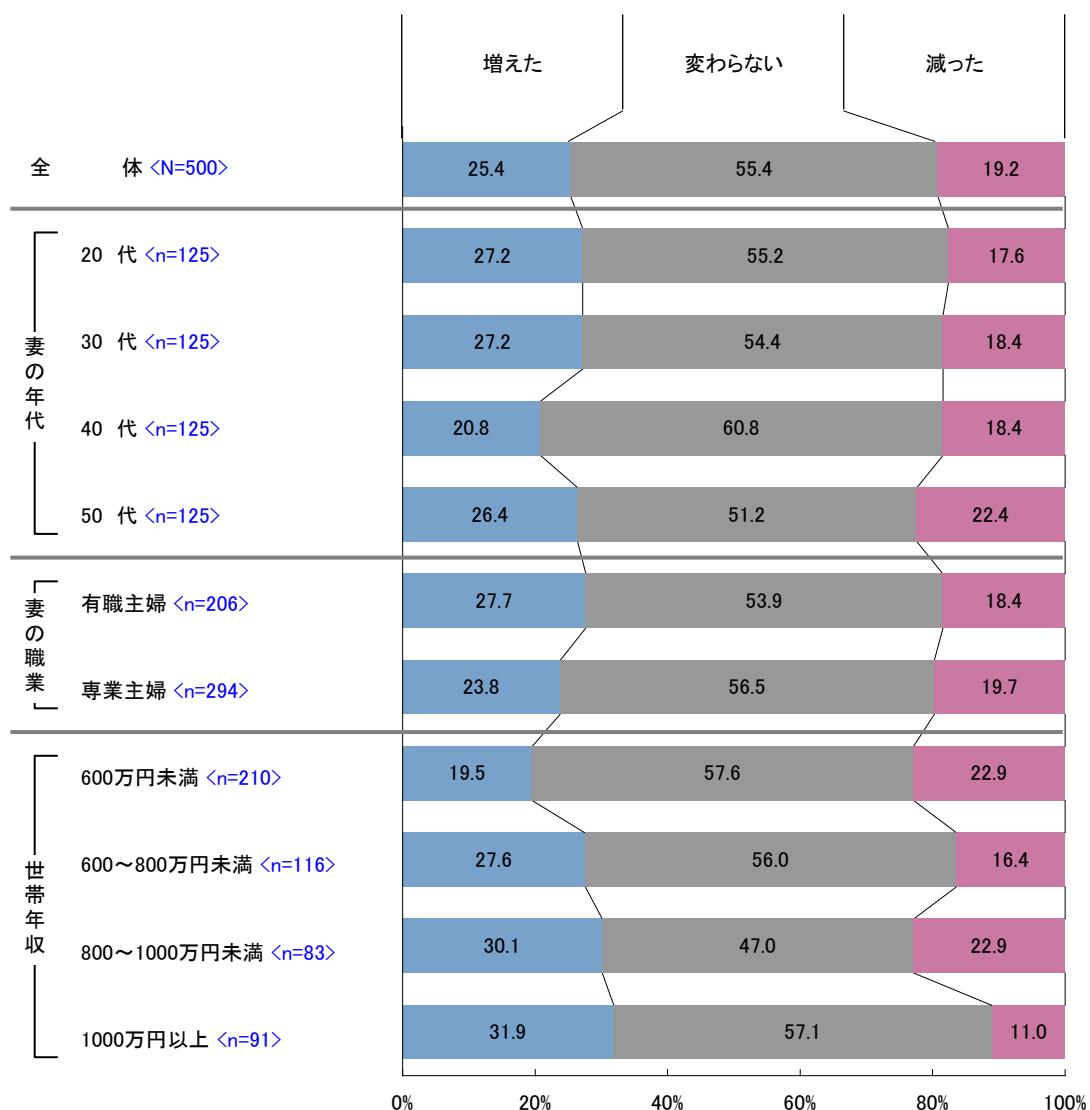
4. 「金融資産の残高」の増減

「変わらない」が半数強(55.4%)を占めているが、「減った」(19.2%)よりも「増えた」(25.4%)方がやや多い。

◆「増えた」金額は平均「104.8 万円」、「減った」金額は「116.2 万円」。

◆「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」(59 件)、「節約したから」(18 件)、「ボーナスを貯金したから」(7 件)など“貯金した、節約した”が多い中、「株などで運用益が出たので」(14 件)という理由も。「減った」理由は、「子供の教育費に使ったから」(22 件)、「車を購入したので」(14 件)、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」(9 件)など“出費がかさんだ”ことのほか、「収入が減ったため」(20 件)も。

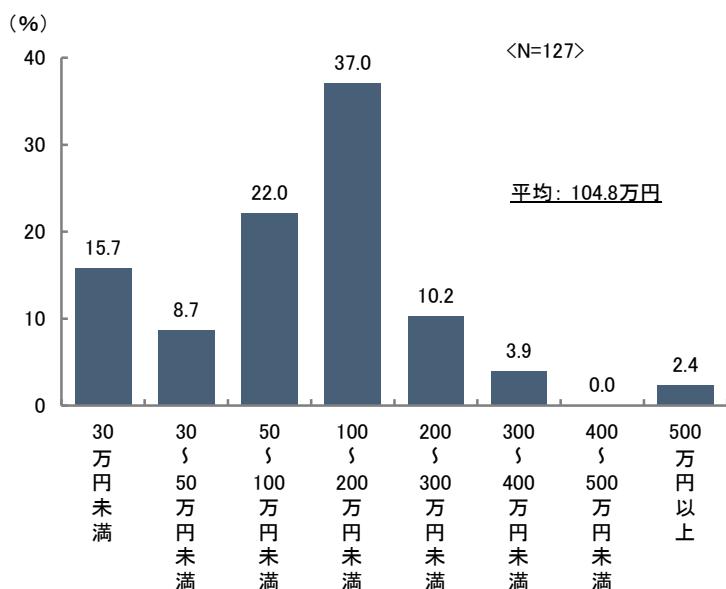
図 3. 「金融資産の残高」の増減



世帯の預貯金や有価証券などを合わせた「金融資産の残高」が今年 1 年で増えたか、減ったかを聞いたところ、「変わらない」が半数強 (55.4%) を占めていますが、「増えた」(25.4%) と「減った」(19.2%) とでは「増えた」の方がやや多くなっています。

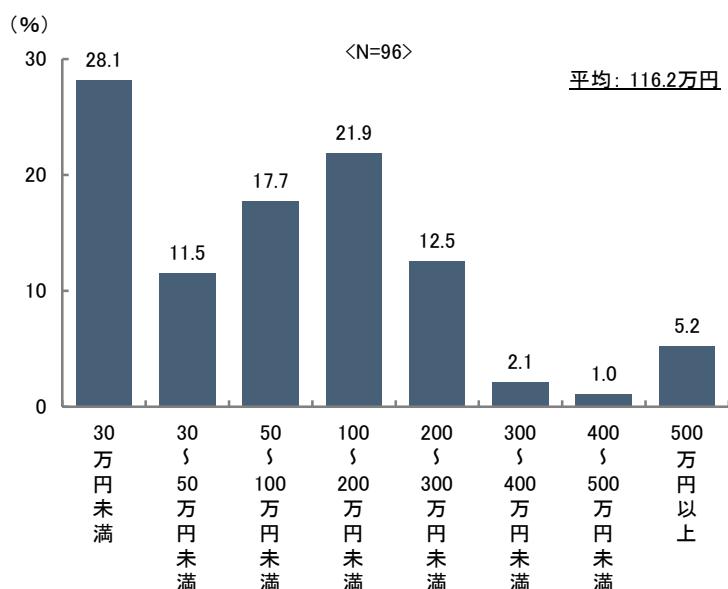
- ・妻の年代別や職業別ではあまり大きな差はありません。
- ・世帯年収別では、年収が高い人ほど「増えた」割合が高く、《600 万円未満》の人では 2 割弱 (19.5%) なのに対し、《800～1000 万円未満》(30.1%)、《1000 万円以上》(31.9%) では 3 割を超えていました。

図 4. 増えた額



世帯の金融資産が「増えた」と答えた人に、増えた金額を聞いてみたところ、「100~200万円未満」(37.0%) が最も多く、以下「50~100万円未満」(22.0%)、「30万円未満」(15.7%)、「200~300万円未満」(10.2%) などの順で、平均「104.8万円」となっています。

図 5. 減った額



一方、「減った金額」は、「30万円未満」(28.1%)、「100~200万円未満」(21.9%)、「50~100万円未満」(17.7%)、「200~300万円未満」(12.5%)、「30~50万円未満」(11.5%) などさまざまです。平均は「116.2万円」で、増えた金額(104.8万円)よりも10万円以上高くなっています。

表 2. “金融資産の残高”の増減の理由（自由回答：件）

<増えた理由>		<減った理由>		<変わらない理由>	
順位	件数	順位	件数	順位	件数
1	こつこつ貯めたから・定期預金	59	1	子供の教育費に使ったから	22
2	節約したから	18	2	収入が減ったため	20
3	株などで運用益が出たので	14	3	車を購入したので	14
4	ボーナスを貯金したから	7	4	家を購入したので・住宅ローンに充てたので	9
5	自分も働くようになったので	5	5	生活費に補填したから	6
6	昇給などで収入が増えたから	4		旅行や趣味などに使ったため	6
	保険金の支払い・退職金などの臨時収入があったから	4	7	冠婚葬祭に使ったため	5
8	子供にかかる費用・ローンが減ったので	3	8	入院・出産など医療費が増えたため	4
	その他	15		その他	17

“金融資産の残高”が増減した理由を具体的に聞いてみました。

「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」(59件)、「節約したから」(18件)、「ボーナスを貯金したから」(7件)など“貯金した、節約した”という理由が多くなっている中、株高の影響か「株などで運用益が出たので」(14件)という理由もあげられています。

「減った」理由は、「子供の教育費に使ったから」(22件)、「車を購入したので」(14件)、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」(9件)、「生活費に補填したから」(6件)、「旅行や趣味などに使ったため」(6件)など“出費がかさんだ”ことをあげる人が多くなっていますが、「収入が減ったため」(20件)という回答もみられます。

「変わらない」という理由は、「ローンや生活費などで貯金できなかったから」(39件)、「収支が変わらないため」(33件)、「収入が増えても支出も多かったため」(23件)、「生活に変化がなかったため」(14件)などが多くなっていますが、「元々資産はないから」(13件)といった理由もあげられています。

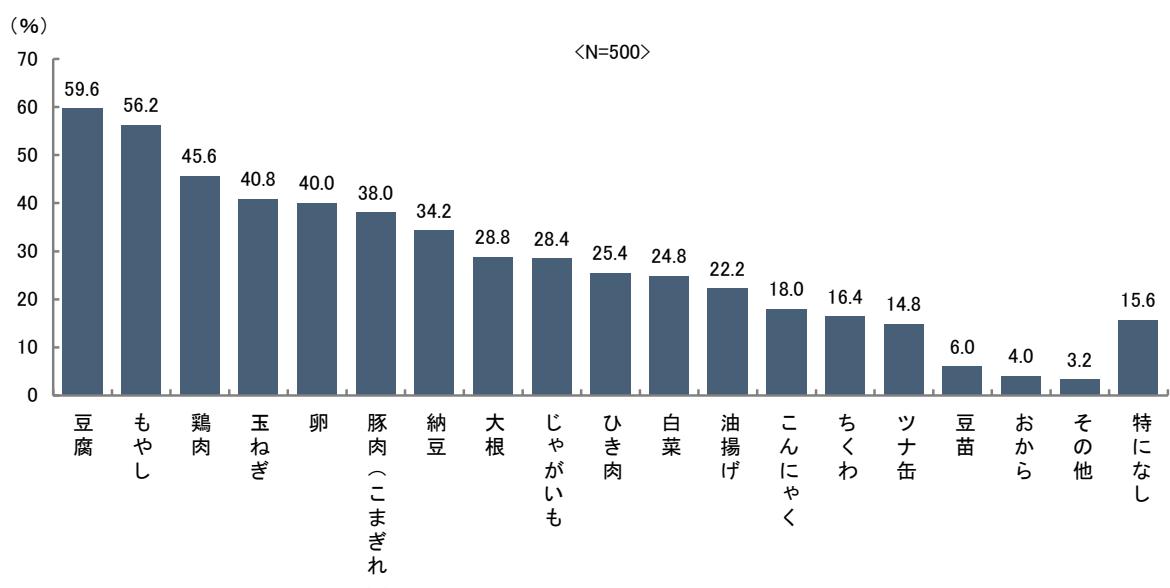
II わが家の生活防衛策

1. 日頃よく利用している「節約食材」

節約食材は、「豆腐」(59.6%)、「もやし」(56.2%)を半数以上が利用しており、以下「鶏肉」(45.6%)、「玉ねぎ」(40.8%)、「卵」(40.0%)、「豚肉(こまぎれ)」(38.0%)、「納豆」(34.2%)などの順。

ご自慢節約料理(メニュー)は、「豆腐ハンバーグ」(34 件)、「もやし炒め」(28 件)、「カレーライス」(21 件)、「余り物で鍋」(20 件)、「野菜炒め」(10 件)などの順で、素材が安価なものや“余り物”利用の料理などに工夫がみられる。

図 6. 日頃よく利用している「節約食材」



妻の年代	20 代 <n=125>	60.0	57.6	54.4	42.4	40.0	43.2	36.8	24.0	33.6	28.8	24.0	18.4	16.0	16.0	14.4	4.8	3.2	2.4	13.6
30 代 <n=125>	68.0	52.8	48.0	41.6	37.6	46.4	35.2	29.6	24.8	28.0	25.6	22.4	15.2	14.4	16.8	10.4	5.6	2.4	14.4	
40 代 <n=125>	53.6	60.8	41.6	40.8	40.8	34.4	31.2	28.8	25.6	22.4	26.4	19.2	17.6	15.2	16.8	3.2	3.2	3.2	12.8	
50 代 <n=125>	56.8	53.6	38.4	38.4	41.6	28.0	33.6	32.8	29.6	22.4	23.2	28.8	23.2	20.0	11.2	5.6	4.0	4.8	21.6	

経済状況が厳しい昨今、「節約食材」を使うことは主婦にとって必須と言えるでしょう。では、日頃よく利用している「節約食材」は何でしょうか。

「豆腐」(59.6%) と 「もやし」(56.2%) を半数以上の主婦が利用しており、以下「鶏肉」(45.6%)、「玉ねぎ」(40.8%)、「卵」(40.0%)、「豚肉 (こまぎれ)」(38.0%)、「納豆」(34.2%) などが続いています。

- ・妻の年代別にみると、「鶏肉」は若い人ほど高い割合で、《50 代》(38.4%) では 3 割台なのに比べ、《20 代》(54.4%) では半数を超えていました。また、「玉ねぎ」、「豚肉 (こまぎれ)」も同様に若い人ほどよく利用しています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、昨冬は「この冬、食費を切り詰めるための節約食材」という聞き方であり、今回と若干違いますが、「もやし」(63.4%→56.2%)、「豚肉 (こまぎれ)」(44.0%→38.0%) など、前回よりも

や減っている項目が多くなっています。

表 3. ご自慢節約料理（メニュー）（自由回答：件）

順位		件数
1	豆腐ハンバーグ	34
2	もやし炒め	28
3	カレーライス	21
4	余り物で鍋	20
5	野菜炒め	10
6	ギョウザ	8
7	肉じゃが	8
8	麻婆豆腐	7
9	もやしのあんかけ	7
	もやしのナムル	7
11	おからハンバーグ	5
12	冷や奴、湯豆腐	5
	白菜鍋	5
14	油揚げ丼	4
15	余り物でスープ	4
	大根の皮のきんぴら	4
	白菜と豚肉の蒸し料理	4
	もやしサラダ	4
	焼きそば	4
20	チャーハン	3
21	鶏の唐揚げ	3
	納豆オムレツ	3
	もやしと豚肉の蒸し料理	3
	もんじゃ焼き	3

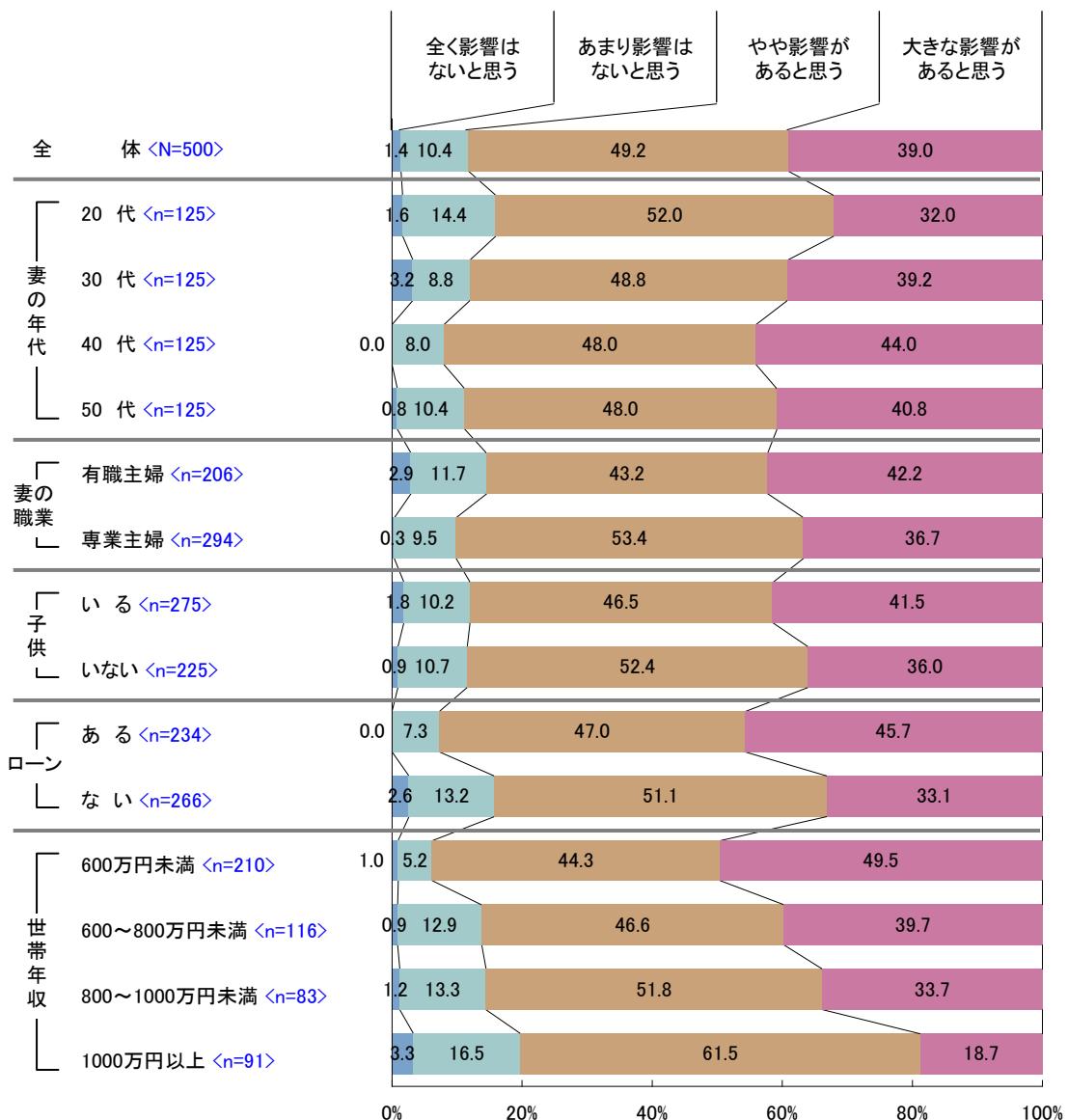
次いで、「ご自慢節約料理（メニュー）」を自由回答で答えてもらった結果をみると、「豆腐ハンバーグ」（34 件）、「もやし炒め」（28 件）、「カレーライス」（21 件）、「余り物で鍋」（20 件）、「野菜炒め」（10 件）、「ギョウザ」（8 件）、「肉じゃが」（8 件）など、さまざまなものがあげられています。「豆腐ハンバーグ」や「もやし炒め」など素材が安価なものや、「余り物で鍋」「余り物でスープ」（4 件）など“余り物” 利用の料理などに工夫がみられます。

2. 消費税増税は、家計や消費生活に影響があると思うか

大多数の人が“あると思う”(88.2%)と回答一世帯年収が低い家庭の主婦ほど大きな影響を予測。

※“ないと思う”は、「全く影響はないと思う」「あまり影響はないと思う」の合計、“あると思う”は、「大きな影響があると思う」「やや影響があると思う」の合計を表します。

図 7. 消費税増税は、家計や消費生活に影響があると思うか



消費税は、2014年4月から8%、2015年10月から10%に上がる予定ですが、こういった消費税増税は、家計や消費生活に影響があると思うかどうかを聞いてみたところ、「全く影響はないと思う」(1.4%)、「あまり影響はないと思う」(10.4%)など“ないと思う”(11.8%)という人は1割程度にとどまり、「やや影響があると思う」(49.2%)、「大きな影響があると思う」(39.0%)を合わせた“あると思う”(88.2%)という人が大多数となっています。やはり、消費税増税が家計や消費に与える影響は大きいようです。

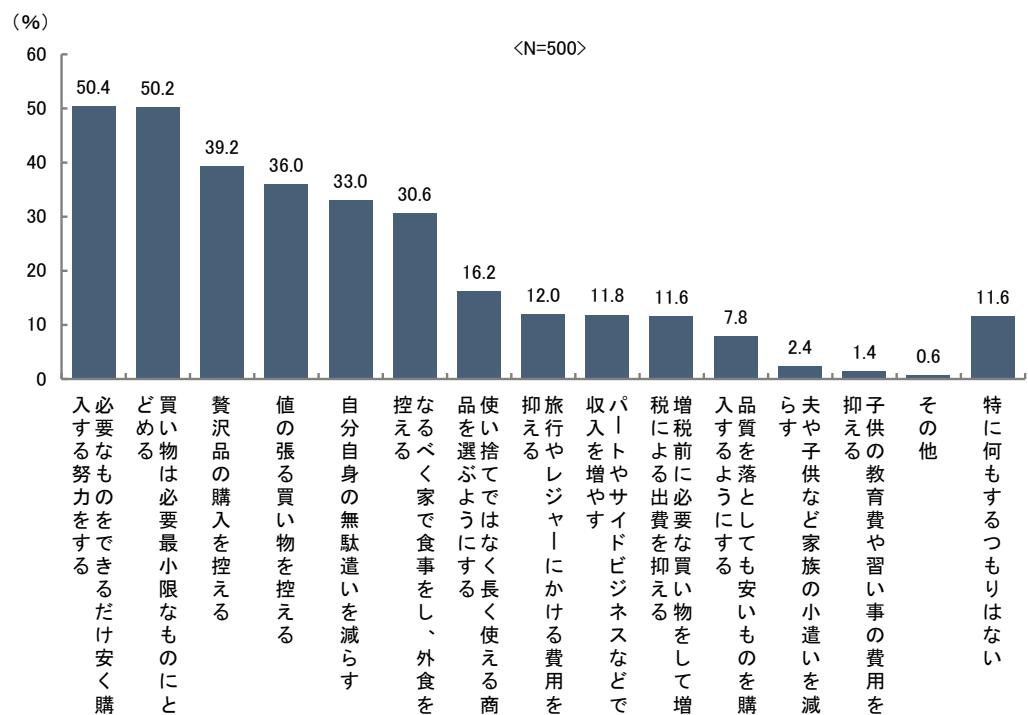
- ・妻の年代別にみると、いずれも“あると思う”という回答が多数を占めていますが、《40代》(92.0%)の割合が最も高くなっています。

- ・妻の職業別や独立していない子供（扶養中の子供）の有無別ではあまり大きな差はありません。
- ・住宅ローンの有無別にみると、ローンが《ある》という人の方が影響を強く感じており、例えば「大きな影響があると思う」の割合は、ローンが《ある》（45.7%）人の方が《ない》（33.1%）人よりも 10 ポイント以上高くなっています。消費税増税で、住宅ローンの負担が一層重くのしかかってくるようです。
- ・世帯年収別にみると、やはり年収が低い家庭の主婦ほど影響を強く意識しており、「大きな影響があると思う」の割合は、年収《1000 万円以上》の人では 2 割弱（18.7%）にとどまっているのに対し、《600 万円未満》（49.5%）ではほぼ半数に達しています。

3. 消費税増税にどのように対応しようと思っているか

「必要なものをできるだけ安く購入する努力をする」(50.4%)、「買い物は必要最小限なものにとどめる」(50.2%)をはじめ、「贅沢品の購入を控える」(39.2%)、「値の張る買い物を控える」(36.0%)、「自分自身の無駄遣いを減らす」(33.0%)、「なるべく家で食事をし、外食を控える」(30.6%)など、“安く買う”ことや“買い物を減らす”ことが多くあげられている。

図 8. 消費税増税にどのように対応しようと思っているか（複数回答）



妻の年齢	20代 <n=125>	51.2	56.8	39.2	33.6	27.2	34.4	17.6	13.6	13.6	12.0	12.8	1.6	1.6	1.6	9.6
	30代 <n=125>	50.4	48.8	33.6	36.8	37.6	31.2	13.6	9.6	12.8	8.0	6.4	2.4	0.8	—	11.2
	40代 <n=125>	46.4	51.2	40.8	41.6	29.6	28.0	16.8	12.8	11.2	9.6	8.0	0.8	0.8	0.8	12.0
	50代 <n=125>	53.6	44.0	43.2	32.0	37.6	28.8	16.8	12.0	9.6	16.8	4.0	4.8	2.4	—	13.6
	有職主婦 <n=206>	47.1	47.6	37.4	35.9	26.7	24.3	15.0	11.7	10.2	13.1	8.7	1.5	1.9	1.0	10.7
妻の職業	専業主婦 <n=294>	52.7	52.0	40.5	36.1	37.4	35.0	17.0	12.2	12.9	10.5	7.1	3.1	1.0	0.3	12.2
	い る <n=275>	55.3	51.3	40.7	39.3	31.6	30.5	14.5	11.6	11.6	10.2	10.2	2.5	2.2	0.4	9.5
子供	い ない <n=225>	44.4	48.9	37.3	32.0	34.7	30.7	18.2	12.4	12.0	13.3	4.9	2.2	0.4	0.9	14.2
	あ る <n=234>	52.1	49.6	41.0	37.2	34.6	30.3	15.8	14.1	10.7	12.8	8.5	2.1	1.7	0.4	9.4
ローン	な い <n=266>	48.9	50.8	37.6	35.0	31.6	30.8	16.5	10.2	12.8	10.5	7.1	2.6	1.1	0.8	13.5
	600万円未満 <n=210>	53.8	61.4	43.3	38.1	29.5	40.0	17.1	13.8	16.7	9.0	9.0	3.3	1.0	0.5	9.5
世帯年収	600～800万円未満 <n=116>	49.1	51.7	38.8	40.5	36.2	25.0	12.9	11.2	12.1	12.9	7.8	0.9	1.7	0.9	9.5
	800～1000万円未満 <n=83>	53.0	41.0	44.6	34.9	38.6	32.5	19.3	13.3	7.2	19.3	4.8	3.6	3.6	—	12.0
	1000万円以上 <n=91>	41.8	30.8	25.3	26.4	31.9	14.3	15.4	7.7	4.4	8.8	7.7	1.1	—	1.1	18.7

では、消費税増税にどのように対応しようと思っているのでしょうか。

「必要なものをできるだけ安く購入する努力をする」(50.4%)、「買い物は必要最小限のものにとどめる」(50.2%)の2項目を半数以上があげているのをはじめ、「贅沢品の購入を控える」(39.2%)、「値の張る買い物を控える」(36.0%)、「自分自身の無駄遣いを減らす」(33.0%)、「なるべく家で食事をし、外食を控える」(30.6%)などの順となっており、“安く買う”ことや“買い物を減らす”ことが多くあげられています。そのほか、「パートやサイドビジネスなどで収入を増やす」(11.8%)といった積極的な対応を考えている人も若干います。

- ・妻の年代別ではあまり大きな差はみられません。
- ・妻の職業別では、《専業主婦》の方が総じてどの項目も少しずつ高い割合となっており、特に「自分自身の無駄遣いを減らす」(有職主婦 26.7%、専業主婦 37.4%)、「なるべく家で食事をし、外食を控える」(同 24.3%、35.0%) では 10 ポイント以上《専業主婦》の方が高い割合となっています。
- ・独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、「必要なものをできるだけ安く購入する努力をする」の割合は、子供が《いる》(55.3%) 人の方が《いない》(44.4%) 人よりも 10 ポイント以上高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、ローンが《ある》という人の方が総じて少しずつ高い割合となっており、いろいろな対処を検討しているようです。
- ・世帯年収別にみると、年収が低い人ほどさまざまな対応を考えており、例えば「買い物は必要最小限なものにとどめる」は、《1000 万円以上》の人では 3 割 (30.8%) 程度なのに対し、《600 万円未満》(61.4%) では 6 割以上と、2 倍近い割合に達しています。

4. 消費税増税の実施前に、駆け込みで買っておきたいと思うものとその金額

「日用品」(58 件)、「パソコン」(37 件)、「自動車」(34 件)、「電化製品」(32 件)、「食料品」(23 件)などを買っておきたい。
金額的には、「住宅」(1,140.0 万円)、「住宅のリフォーム」(215.0 万円)、「自動車」(210.0 万円)などが高額。

表 4. 消費税増税の実施前に、駆け込みで買っておきたいと思うものとその金額（自由回答）

順位		件数	平均金額 (万円)
1	日用品	58	1.8
2	パソコン	37	9.4
3	自動車	34	210.0
4	電化製品	32	25.2
5	食料品	23	1.5
6	衣料品、バッグ、靴	17	9.1
	家具	17	28.7
	洗濯機	17	9.4
9	テレビ	16	10.1
	冷蔵庫	16	14.4
11	住宅のリフォーム	14	215.0
12	ベビー用品	12	5.5
13	携帯電話、スマートフォン、タブレット	11	2.9
14	エアコン	9	13.2
15	旅行、レジャー	8	24.1
16	自転車	7	7.5
17	電子レンジ、オーブンレンジ	6	4.8
18	住宅	5	1,140.0
	炊飯器	5	3.6
20	掃除機	4	5.0

消費税増税の実施前に、駆け込みで買っておきたいと思うものは何でしょうか。自由回答で答えてもらった結果をみると、最も多いのは「日用品」(58 件) で、以下「パソコン」(37 件)、「自動車」(34 件)、「電化製品」(32 件)、「食料品」(23 件)、「衣料品、バッグ、靴」(17 件)、「家具」(17 件)、「洗濯機」(17 件)、「テレビ」(16 件)、「冷蔵庫」(16 件)、「住宅のリフォーム」(14 件) などが続いています。

金額面から見ると、「住宅」(1,140.0 万円)、「住宅のリフォーム」(215.0 万円)、「自動車」(210.0 万円) など高額なものもあげられていますが、「日用品」(1.8 万円)、「食料品」(1.5 万円)、「携帯電話、スマートフォン、タブレット」(2.9 万円) など高額でないものも数多くあげられています。増税前に買っておきたいのは高額商品ばかりではないようです。

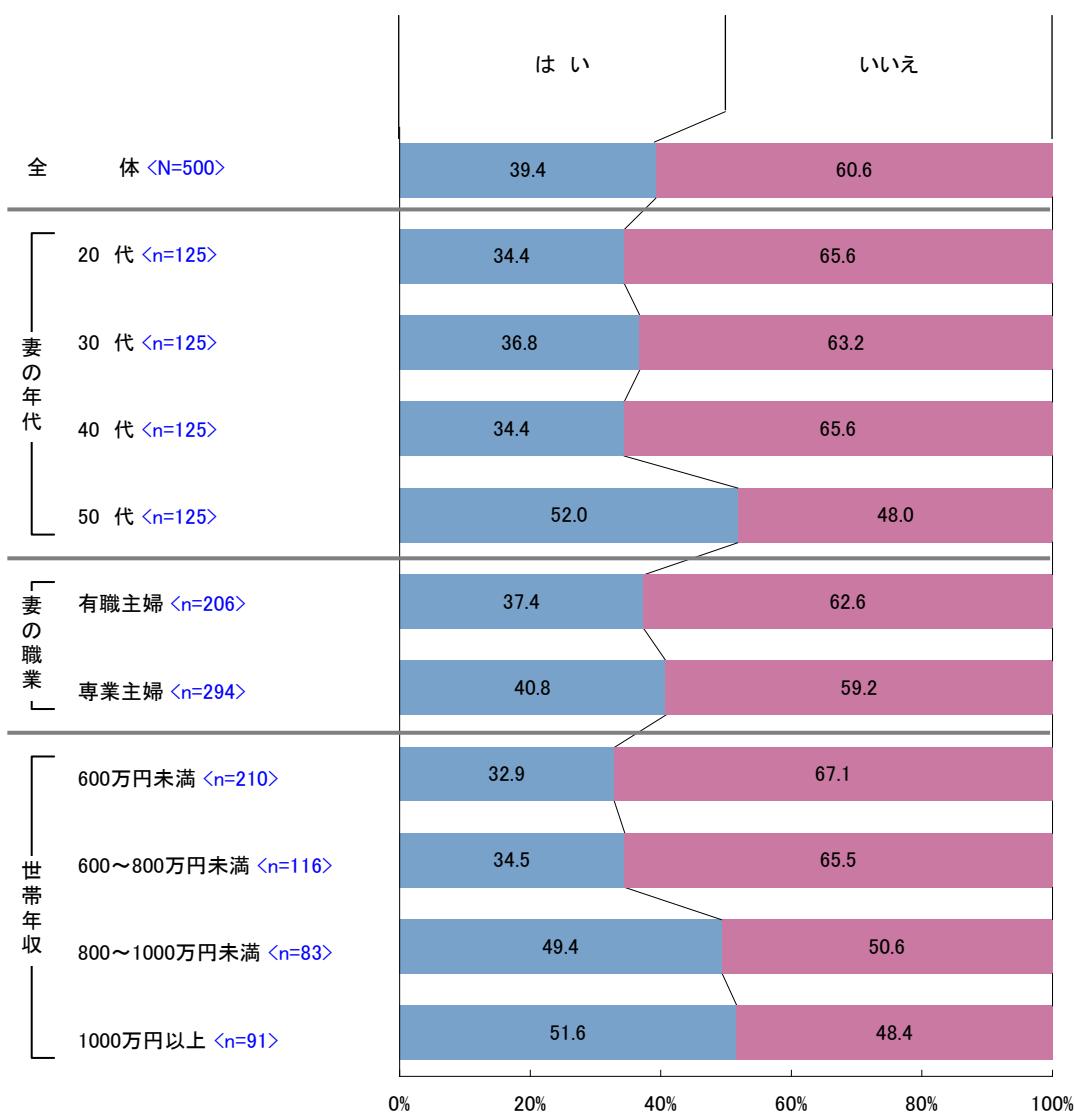
III 夫に内緒の資産

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況

ほぼ4割(39.4%)が『夫に内緒の資産』を持っている。

※『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない妻名義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限りません。

図 9. 『夫に内緒の資産』を持っているか



サラリーマン世帯の主婦は、『夫に内緒の資産』をどのくらいの割合の人が持っているのでしょうか。『夫に内緒の資産』があるかについて聞いたところ、「はい」と回答したのはほぼ4割(39.4%)となっています。

・妻の年代別にみると、《20代》～《40代》まではいずれも35%前後であり変わりありませんが、《50代》(52.0%)になると半数以上と急に保有率が増えています。

- ・妻の職業別ではあまり差はありません。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が高くなるほど保有率も高く、《600万円未満》(32.9%)、《600～800万円未満》(34.5%)では3割台ですが、《800～1000万円未満》(49.4%)、《1000万円以上》(51.6%)では半数前後と、徐々に増加しています。

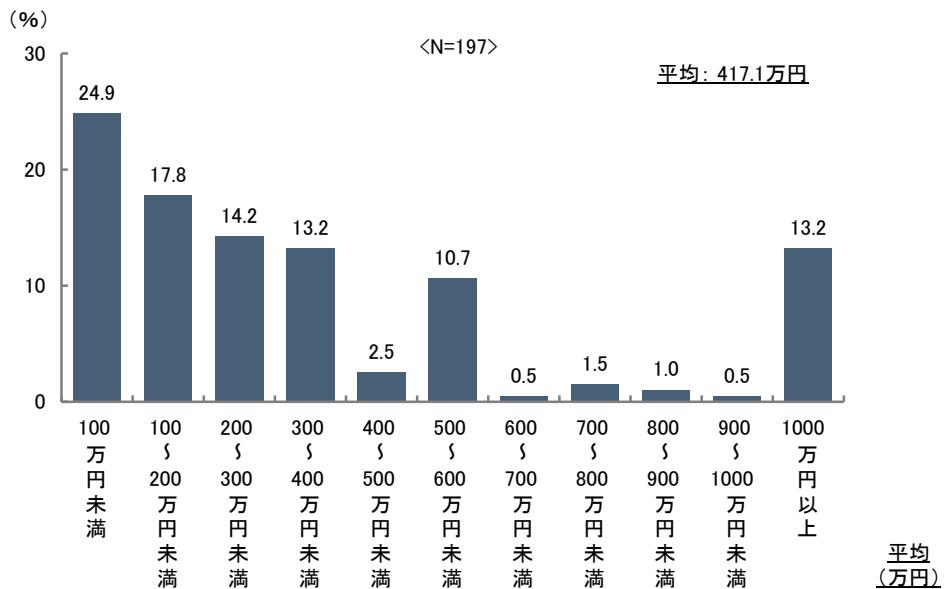
■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、保有者の割合は45.4%→39.4%とやや減っています。

2. 『夫に内緒の資産』の保有額

「100万円未満」(24.9%)、「100～200万円未満」(17.8%)、「200～300万円未満」(14.2%)、「1000万円以上」(13.2%)と人によって大きな差がある。平均は「417.1万円」。

図 10. 『夫に内緒の資産』をいくらくらい持っているか



妻の年代	妻の職業	世帯年収	平均 (万円)											
			20代 <n=43>	30代 <n=46>	40代 <n=43>	50代 <n=65>	有職主婦 <n=77>	専業主婦 <n=120>	600万円未満 <n=69>	600～800万円未満 <n=40>	800～1000万円未満 <n=41>	1000万円以上 <n=47>		
20代 <n=43>			34.9	9.3	11.6	18.6	2.3	7.0	-	2.3	2.3	2.3	9.3	410.6
30代 <n=46>			26.1	17.4	10.9	15.2	2.2	13.0	2.2	2.2	2.2	-	8.7	413.8
40代 <n=43>			30.2	25.6	18.6	14.0	4.7	2.3	-	-	-	-	4.7	194.2
50代 <n=65>			13.8	18.5	15.4	7.7	1.5	16.9	-	1.5	-	-	24.6	573.4
有職主婦 <n=77>			19.5	13.0	14.3	19.5	2.6	10.4	1.3	1.3	-	-	18.2	586.3
専業主婦 <n=120>			28.3	20.8	14.2	9.2	2.5	10.8	-	1.7	1.7	0.8	10.0	309.9
600万円未満 <n=69>			34.8	20.3	8.7	18.8	2.9	8.7	-	-	1.4	1.4	2.9	232.7
600～800万円未満 <n=40>			35.0	10.0	15.0	15.0	5.0	5.0	2.5	2.5	2.5	-	7.5	347.0
800～1000万円未満 <n=41>			9.8	19.5	19.5	7.3	-	26.8	-	-	-	-	17.1	487.6
1000万円以上 <n=47>			14.9	19.1	17.0	8.5	2.1	4.3	-	4.3	-	-	29.8	691.6

『夫に内緒の資産』を持っている人にその金額を聞いたところ、「100万円未満」(24.9%) が最も多く、以下「100～200万円未満」(17.8%)、「200～300万円未満」(14.2%)、「1000万円以上」(13.2%)、「300～400万円未満」(13.2%)、「500～600万円未満」(10.7%) などが続いており、低い金額ほど割合が多い傾向がありますが、人によって大きな差があります。

資産保有者の平均額は「417.1万円」です。

ちなみに、最高金額は「5000万円」(3名)でした。

- ・妻の年代別にみると、《50代》で「100万円未満」(13.8%) の割合が他の年代に比べて低く、「1000万円以上」(24.6%) の割合が高いのが目立ち、平均の金額も《50代》(573.4万円) が最も高くなっています。
- ・妻の職業別にみると、平均額は《有職主婦》(586.3万円) が《専業主婦》(309.9万円) の2倍近い金額となっています。

- ・世帯年収別にみると、やはり年収が高い家庭の主婦ほど資産額は高く、《600万円未満》（232.7万円）が200万円程度なのに対し、《1000万円以上》（691.6万円）では700万円近い金額です。

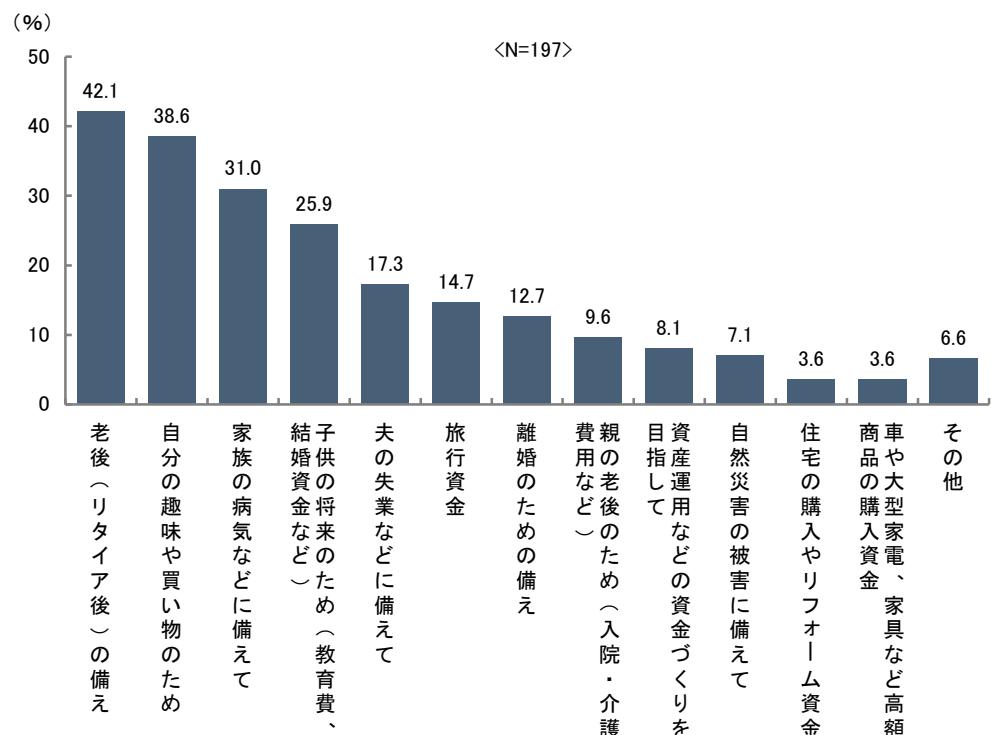
■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、平均所持率（45.4%→39.4%）はやや減っているものの、持っている人の平均金額は「414.6万円」→「417.1万円」とわずかながら増えています。

3. 『夫に内緒の資産』を持つ目的

「老後(リタイア後)の備え」(42.1%)、「家族の病気などに備えて」(31.0%)、「子供の将来のため(教育費、結婚資金など)」(25.9%)、「夫の失業などに備えて」(17.3%)と“いざという時のため”が多いほか、「自分の趣味や買い物のため」(38.6%)、「旅行資金」(14.7%)などの“楽しみのため”も少なくない。

図 11. 『夫に内緒の資産』を持つ目的 (複数回答)



妻の年代	20代 <n=43>	27.9	55.8	32.6	39.5	27.9	14.0	20.9	14.0	9.3	14.0	11.6	4.7	7.0
	30代 <n=46>	32.6	41.3	26.1	30.4	21.7	10.9	17.4	10.9	6.5	6.5	2.2	2.2	6.5
	40代 <n=43>	39.5	34.9	23.3	25.6	14.0	4.7	9.3	4.7	4.7	4.7	—	4.7	7.0
	50代 <n=65>	60.0	27.7	38.5	13.8	9.2	24.6	6.2	9.2	10.8	4.6	1.5	3.1	6.2
妻の職業	有職主婦 <n=77>	50.6	32.5	29.9	29.9	20.8	20.8	13.0	11.7	6.5	5.2	6.5	3.9	1.3
	専業主婦 <n=120>	36.7	42.5	31.7	23.3	15.0	10.8	12.5	8.3	9.2	8.3	1.7	3.3	10.0
世帯年収	600万円未満 <n=69>	36.2	40.6	34.8	27.5	20.3	7.2	15.9	10.1	7.2	10.1	1.4	2.9	7.2
	600～800万円未満 <n=40>	40.0	45.0	17.5	32.5	12.5	15.0	10.0	2.5	10.0	2.5	5.0	7.5	5.0
	800～1000万円未満 <n=41>	51.2	29.3	29.3	29.3	19.5	14.6	17.1	17.1	4.9	9.8	4.9	2.4	7.3
	1000万円以上 <n=47>	44.7	38.3	38.3	14.9	14.9	25.5	6.4	8.5	10.6	4.3	4.3	2.1	6.4

『夫に内緒の資産』をどのように使うために持っているかを聞いたところ、「老後(リタイア後)の備え」(42.1%)、「自分の趣味や買い物のため」(38.6%)、「家族の病気などに備えて」(31.0%)、「子供の将来のため(教育費、結婚資金など)」(25.9%)、「夫の失業などに備えて」(17.3%)、「旅行資金」(14.7%)、「離婚のための備え」(12.7%)などの順となっており、“いざという時のため”が多いほか、“楽しみのため”も少くないようです。

- ・妻の年代別にみると、当然ながら「老後(リタイア後)の備え」は年齢が上の人ほど多く、特に《50代》(60.0%)の多さが目立ちます。一方、「自分の趣味や買い物のため」「子供の将来のため(教育費、結婚資金など)」「夫の失業などに備えて」「離婚のための備え」などは若い人ほど多くあげており、若い人ほど“楽しみ”も含めていろいろなケースに備えて『夫に内緒の資産』を蓄えているようです。

- ・妻の職業別にみると、「老後（リタイア後）の備え」（有職主婦 50.6%、専業主婦 36.7%）、「旅行資金」（同 20.8%、10.8%）などは《有職主婦》の方が、「自分の趣味や買い物のため」（有職主婦 32.5%、専業主婦 42.5%）などは《専業主婦》の方が、それぞれ高い割合です。
- ・世帯年収別にみると、年収が高い世帯の主婦ほど「旅行資金」をあげる割合が高い傾向がみられます。

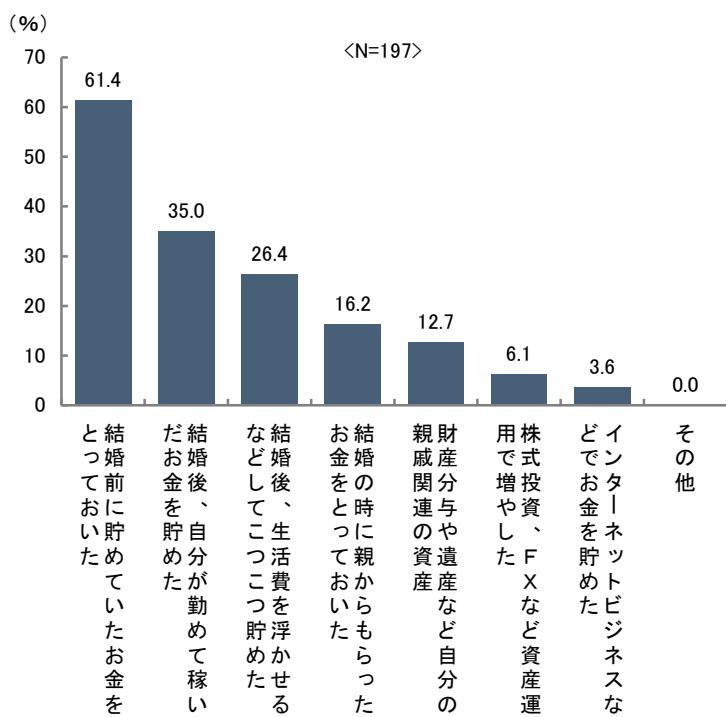
■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べても、5ポイント以上差のある項目はなく、昨冬とほぼ同様の結果です。

4. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか

「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(61.4%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(35.0%)と“自分で働いて貯めた”お金が元になっている人が多く、以下「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(26.4%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(16.2%)、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(12.7%)など。

図 12. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか (複数回答)



『夫に内緒の資産』をどのようにして得たかについては、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(61.4%)が最も多く、次いで「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(35.0%)が続き、“自分で働いて貯めた”お金が内緒の資産の原資になっている人が多いようです。

以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(26.4%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(16.2%)、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(12.7%)などが続いています。

表 5. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか (複数回答 : 内緒の資産額別)

		サンプル数	と結婚前に貯めていたお金を	だ結婚後、貯めたが勤めて稼い	な結婚後、生活費を浮かせる	お結婚の時に親からもらつた	親財産分与や遺産など自分の	用株式投資、FXなど資産運	どインターネットビジネスな	その他
			と結婚前に貯めていたお金を	だ結婚後、貯めたが勤めて稼い	な結婚後、生活費を浮かせる	お結婚の時に親からもらつた	親財産分与や遺産など自分の	用株式投資、FXなど資産運	どインターネットビジネスな	
全 体		197	61.4	35.0	26.4	16.2	12.7	6.1	3.6	-
内緒の資産	100万円未満	49	40.8	28.6	38.8	8.2	6.1	-	4.1	-
	100～200万円未満	35	60.0	45.7	28.6	20.0	2.9	5.7	5.7	-
	200～300万円未満	28	71.4	39.3	10.7	10.7	14.3	-	-	-
	300～500万円未満	31	71.0	41.9	29.0	16.1	16.1	6.5	-	-
	500～1000万円未満	28	75.0	21.4	21.4	28.6	7.1	17.9	-	-
	1000万円以上	26	65.4	34.6	19.2	19.2	38.5	11.5	11.5	-

- 参考までに『内緒の資産額』別の傾向をみると、サンプル数が少ないためにやや数値のバラつきがありますが、内緒の資産額が多い人ほど「結婚前に貯めていたお金をとつておいた」や「結婚の時に親からもらったお金をとつておいた」「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」、少ない人ほど「結婚後、生活費を浮かせるなどして貯めた」が多い傾向がみられます。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べても、大きな傾向の差はみられません。

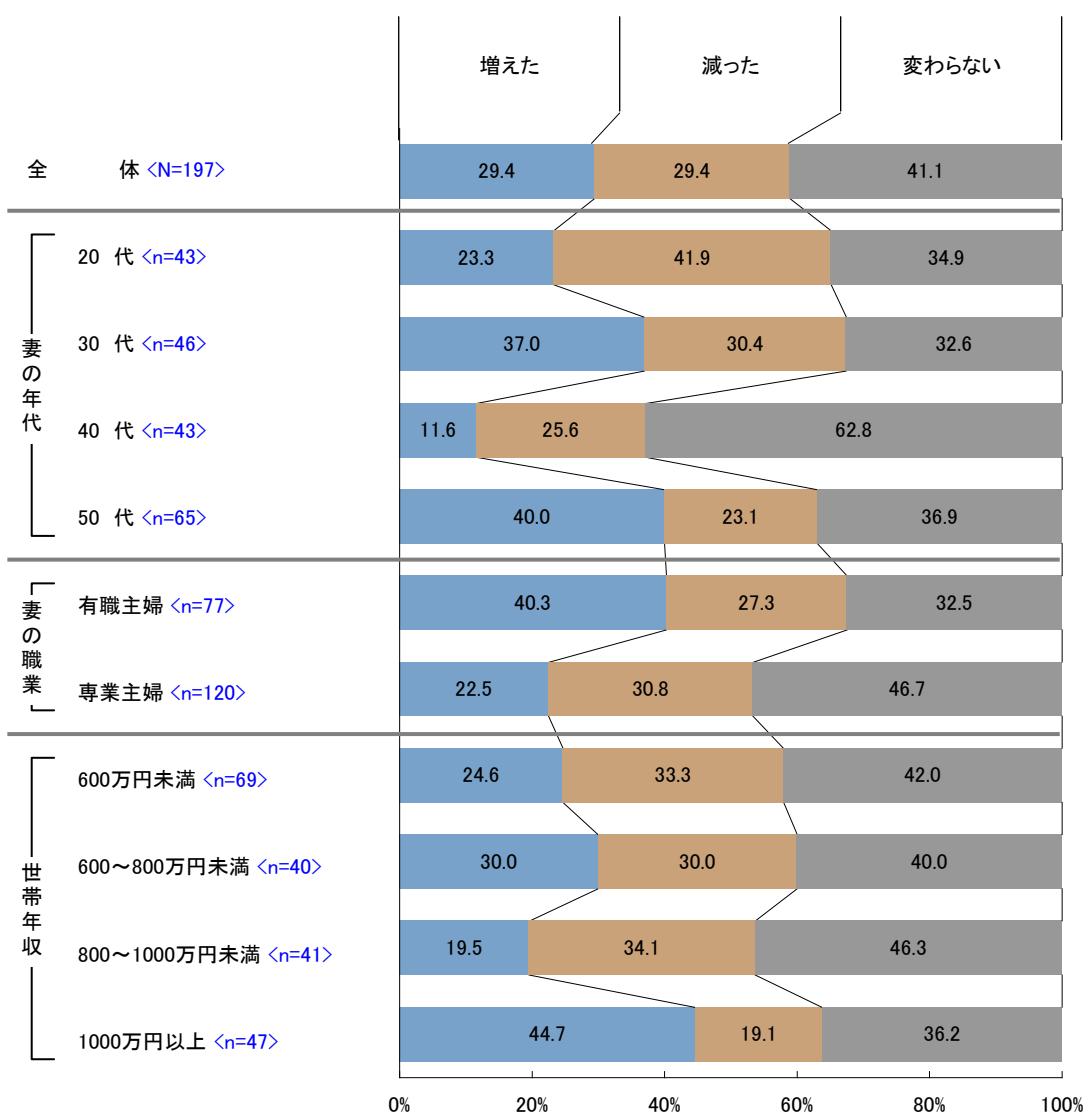
5. 『夫に内緒の資産』の増減

2013年に入ってからの“夫に内緒の資産”的増減は、4割強(41.1%)は「変わらない」で、「増えた」(29.4%)と「減った」(29.4%)が同数と、全体的には変化がない。

◆増えた理由は、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(36.2%)と“不安”が最大の要因だが、「自分の収入や夫の収入が増えた」(32.8%)、「臨時収入があった」(17.2%)と“収入増”も大きな理由。

◆減った理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(48.3%)が突出して多く、以下「臨時出費があった」(20.7%)、「収入が減り、へそくりできなくなった」(17.2%)など。

図 13. 2013年に入ってからの増減



2013年に入ってからの『夫に内緒の資産』の増減を聞いたところ、「変わらない」が4割強(41.1%)を占めるほかは、「増えた」(29.4%)と「減った」(29.4%)がともに3割弱で、全体的にはあまり変化はないようです。

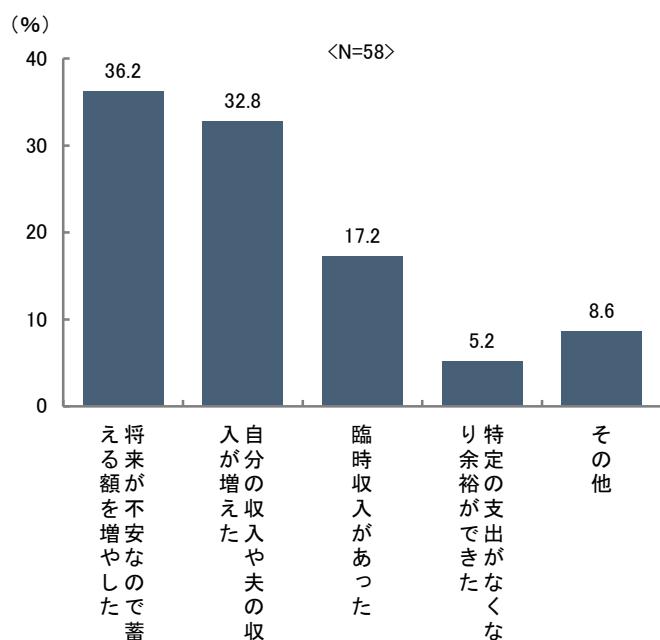
- ・妻の年代別にみると、《40代》で「変わらない」(62.8%)割合が高くなっています。

- ・妻の職業別にみると、《有職主婦》では「減った」(27.3%) よりも「増えた」(40.3%) という方が 10 ポイント以上高くなっていますが、《専業主婦》では逆に「増えた」(22.5%) よりも「減った」(30.8%) の方が多くなっており、やはり職業を持っている主婦の方が『夫に内緒の資産』は増やしやすいようです。
- ・世帯年収別にみると、《1000 万円以上》の世帯の主婦で「増えた」(44.7%) 割合が特に高いのが特徴的です。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べてみると、「増えた」(23.3%→29.4%) がやや増え、「減った」(31.3%→29.4%)、「変わらない」(45.4%→41.1%) がやや減っており、昨冬より増加傾向が強まっています。

図 14. 『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由



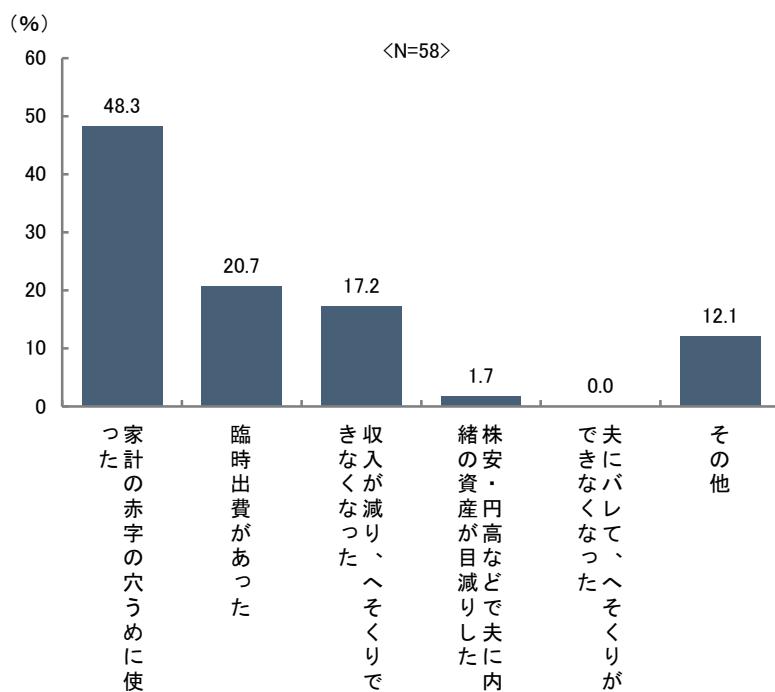
『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由をあげてもらったところ、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(36.2%) と“不安”が最大の要因ですが、「自分の収入や夫の収入が増えた」(32.8%)、「臨時収入があった」(17.2%) と“収入増”も大きな理由となっています。

なお、「臨時収入があった」の具体的な内容としては、「親からもらった」(5 件)、「外貨を売った」「株の配当」「退職金」(各 1 件) などとなっています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べ、今回は「将来が不安なので蓄える額を増やした」(39.6%→36.2%) がトップで変わりませんが、「特定の支出がなくなり余裕ができた」(18.9%→5.2%) が減り、「自分の収入や夫の収入が増えた」(17.0%→32.8%) が増えています。

図 15. 『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由



『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」が突出して多く、半数近く(48.3%)の人があげています。以下、「臨時出費があった」(20.7%)、「収入が減り、へそくりできなくなった」(17.2%)などの順です。

なお、「臨時出費があった」の具体的な内容としては、「子供の教育費」(3件)、「車の購入」(2件)、「転勤による引っ越し」「子供の歯科矯正費用」「子供の習い事」(各1件)などがあげられています。

■昨冬の調査結果との比較■

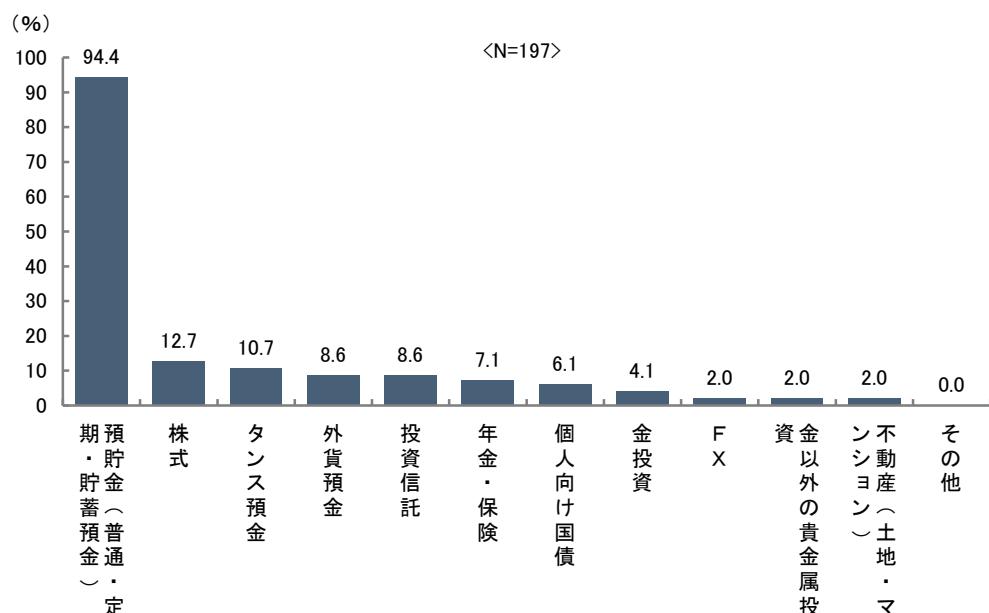
昨冬の調査結果と比べ、今回は「家計の赤字の穴うめに使った」(38.0%→48.3%)が増え、「株安・円高などで夫に内緒の資産が目減りした」(11.3%→1.7%)が減っています。

6. 『夫に内緒の資産』の保有形態について

「預貯金(普通・定期・貯蓄預金)」(94.4%)で保有している人が圧倒的で、そのほかは「株式」(12.7%)、「タンス預金」(10.7%)など。

今後保有したい形も、「預貯金(普通・定期・貯蓄預金)」(86.8%)が圧倒的に多く、以下「株式」(9.6%)、「タンス預金」(9.6%)など。

図 16. 『夫に内緒の資産』はどのような形で保有しているか(複数回答)

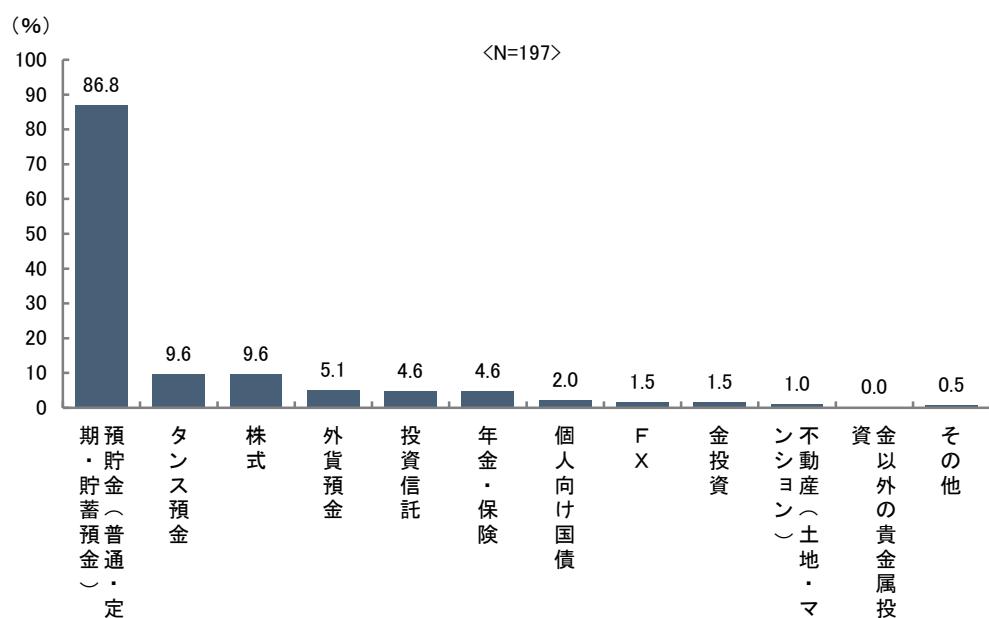


妻の年代	内緒の資産	20代	30代	40代	50代	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～1000万円未満	1000万円以上	その他	
		n=43	n=46	n=43	n=65	n=49	n=35	n=28	n=31	n=28	n=26	n=26	
20代	20代	95.3	14.0	11.6	9.3	4.7	11.6	2.3	7.0	4.7	4.7	7.0	-
30代	30代	91.3	4.3	8.7	6.5	10.9	4.3	6.5	-	-	-	-	-
40代	40代	95.3	9.3	7.0	7.0	2.3	-	2.3	-	-	-	-	-
50代	50代	95.4	20.0	13.8	10.8	13.8	10.8	10.8	7.7	3.1	3.1	1.5	-
	100万円未満	91.8	2.0	18.4	-	2.0	8.2	-	-	-	-	-	-
	100～200万円未満	88.6	5.7	20.0	5.7	2.9	5.7	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	-
	200～300万円未満	100.0	10.7	3.6	10.7	3.6	3.6	-	-	-	-	-	-
	300～500万円未満	100.0	9.7	3.2	6.5	9.7	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	-
	500～1000万円未満	96.4	25.0	-	14.3	14.3	10.7	10.7	3.6	-	-	-	-
	1000万円以上	92.3	34.6	11.5	23.1	26.9	11.5	26.9	19.2	7.7	7.7	7.7	-

現在、『夫に内緒の資産』はどのような形で保有しているか、すなわち“へそくりの隠し場所”を聞いてみたところ、「預貯金(普通・定期・貯蓄預金)」(94.4%)が圧倒的に多くなっています。そのほかは多くても1割程度で、「株式」(12.7%)、「タンス預金」(10.7%)、「外貨預金」(8.6%)、「投資信託」(8.6%)などの順となっています。

- ・妻の年代別にみると、いずれも「預貯金(普通・定期・貯蓄預金)」が圧倒的に多くなっていますが、《50代》で「株式」(20.0%)、「タンス預金」(13.8%)、「投資信託」(13.8%)など、他の年代に比べて高い割合の項目が多く、いろいろな形で保有しています。
- ・夫に内緒の資産額別にみると、いずれも「預貯金(普通・定期・貯蓄預金)」が圧倒的に多い点に変わりはありませんが、内緒の資産が《500～1000万円未満》《1000万円以上》の人で「株式」(順に25.0%、34.6%)、「外貨預金」(同14.3%、23.1%)、「投資信託」(同14.3%、26.9%)、「個人向け国債」(同10.7%、26.9%)などが多く、さまざまな方法で運用している割合が高くなっています。

図 17 今後、『夫に内緒の資産』はどのような形で保有したいか（回答は2つまで）



妻の年代	20代 <n=43>	93.0	9.3	11.6	2.3	7.0	7.0	-	-	-	2.3	-	-
	30代 <n=46>	84.8	8.7	8.7	6.5	-	6.5	4.3	2.2	-	-	-	2.2
	40代 <n=43>	90.7	9.3	4.7	9.3	2.3	-	-	2.3	2.3	-	-	-
	50代 <n=65>	81.5	10.8	12.3	3.1	7.7	4.6	3.1	1.5	3.1	1.5	-	-
内緒の資産	100万円未満 <n=49>	89.8	16.3	2.0	2.0	6.1	2.0	-	2.0	-	-	-	-
	100~200万円未満 <n=35>	82.9	17.1	2.9	2.9	2.9	11.4	-	-	-	2.9	-	-
	200~300万円未満 <n=28>	92.9	-	10.7	7.1	-	3.6	-	3.6	3.6	-	-	-
	300~500万円未満 <n=31>	93.5	3.2	9.7	3.2	9.7	6.5	3.2	-	-	-	-	-
	500~1000万円未満 <n=28>	85.7	-	28.6	3.6	3.6	3.6	3.6	-	-	-	-	3.6
	1000万円以上 <n=26>	73.1	15.4	11.5	15.4	3.8	-	7.7	3.8	7.7	3.8	-	-

次に、今後は『夫に内緒の資産』をどのような形で保有したいか聞いてみたところ、現在と同様「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（86.8%）が圧倒的に多くなっています。そのほかでは1割以上の項目はなく、「株式」（9.6%）、「タンス預金」（9.6%）などが続いています。

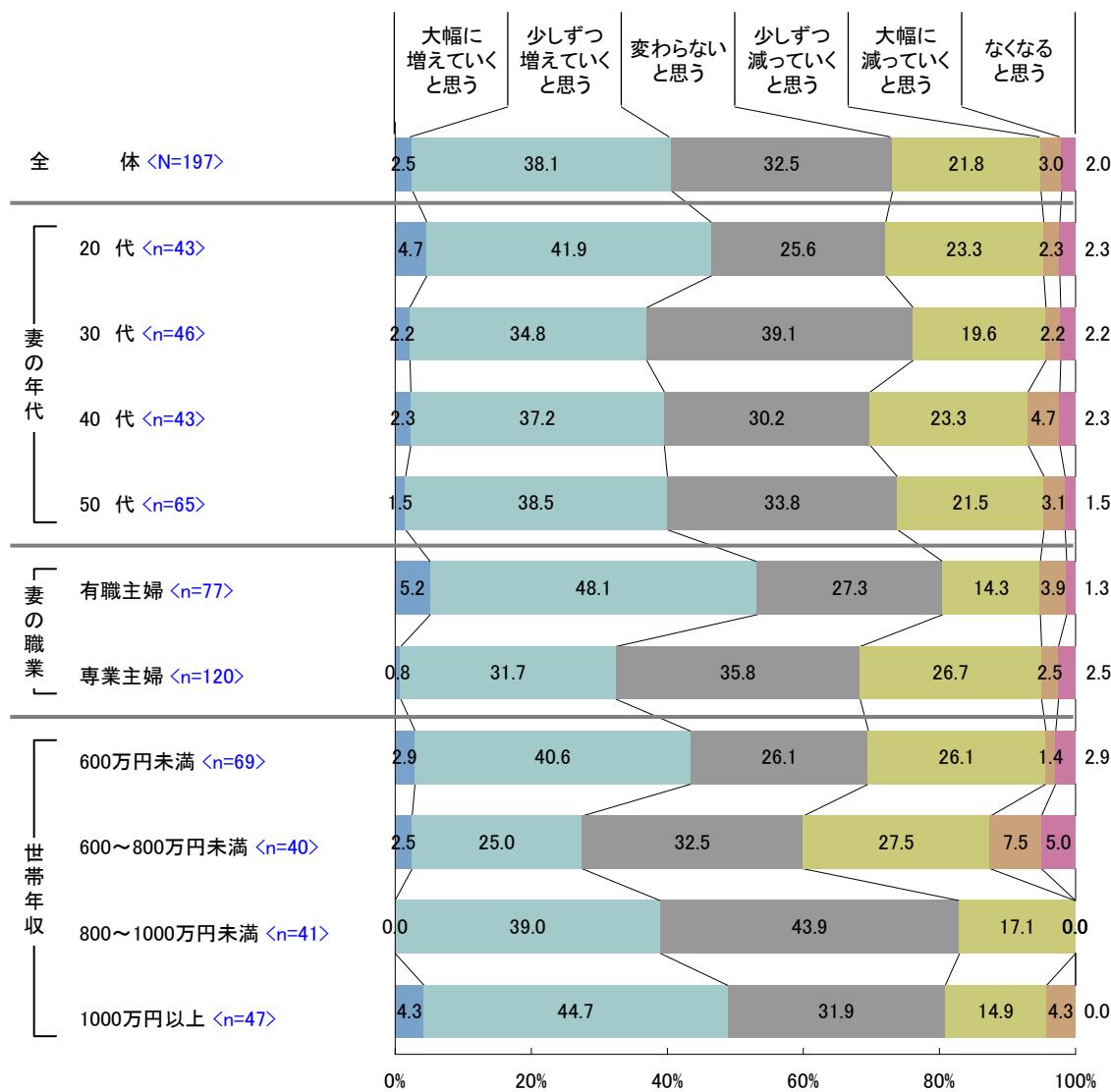
- ・妻の年代別にみても、いずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっています。
 - ・内緒の資産別にみても、やはりいずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっていますが、《1000万円以上》の人では73.1%とやや低く、「タンス預金」（15.4%）、「外貨預金」（15.4%）などが多めとなっています。
 - ・なお、現在の保有形態別にみると、現在「預貯金」で保有している186名のうち、今後も「預貯金」という人が9割強（91.9%）みられます。やはり“安心・安全”にへそくりを保有する方法は預貯金が第一と考えている人が多いようです。そのほか、現在「タンス預金」（保有者中の76.2%）、「株式」（保有者中の60.0%）で保有している人の半数以上が、同様の形で今後も保有したいと考えています。

7. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し

約4割(40.6%)が“増えていくと思う”とみており、“減っていく+なくなると思う”(26.9%)を大きく上回る。

◆増えていくと思う理由は、「働き始めたから・まだ働くつもりだから」(22件)と自分の稼ぎで増やしていくことが最大の理由。減っていく+なくなると思う理由は、「自分が仕事を辞めたから・働いていないから」(13件)と収入が減少することや、「子供の教育費などに回すから」(11件)、「生活費に充てているため」(10件)などの出費。

図 18. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し



『夫に内緒の資産』を保有している回答者に、今後の資産増減の見通しについて聞いたところ、「大幅に増えていくと思う」(2.5%)、「少しづつ増えていくと思う」(38.1%)を合わせた“増えていくと思う”という人が約4割(40.6%)を占め、「少しづつ減っていくと思う」(21.8%)、「大幅に減っていくと思う」(3.0%)、「なくなると思う」(2.0%)を合わせた“減っていく+なくなると思う”(26.9%)を大きく上回っています。先にみたように、家計の状況はいまだ厳しいものがありますが、『夫に内緒の資産』はそれとは別のようです。

- ・妻の年代別にみると、《20代》で「変わらないと思う」(25.6%)が他の年代に比べて少なめ、“増えていくと思う”(46.5%)が多めとなっています。

- ・妻の職業別にみると、《専業主婦》では“増えていくと思う”(32.5%)と“減っていく+なくなると思う”(31.7%)がほぼ同じ割合ですが、《有職主婦》では“増えていくと思う”(53.2%)が半数を超えており、“減っていく+なくなると思う”(19.5%)の2倍以上の割合に達しています。やはり働いている主婦の方が、『夫に内緒の資産』を作りやすいようです。
- ・世帯年収別にみると、“増えていくと思う”割合は、《600～800万円未満》27.5%、《800～1000万円未満》39.0%、《1000万円以上》48.9%と、年収が高いほど高い割合となる傾向が強くみられますが、《600万円未満》(43.5%)でも、割合はかなり高くなっています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べてみると、“増えていくと思う”(43.2%→40.6%)、“減っていく+なくなると思う”(28.2%→26.9%)ともにやや減り、「変わらないと思う」(28.6%→32.5%)がやや増えています。

表 6. 『夫に内緒の資産』が“増えていくと思う”理由 (自由回答: 件)

順位	増えていくと思う理由	件数
1	働き始めたから・まだ働くつもりだから	22
2	継続して貯めているため	14
3	増やしたいという気持ちがあるから	10
4	生活費などを節約しているから	7
	ローンが終わるから・支出が減るから	7
6	親の貯金・遺産が入るので	5
	株・投資など運用しているから	5
8	貯金の利息分があるから	3
	その他	3

『夫に内緒の資産』の見通しについて、その理由を自由回答で聞いてみました。

まず、“増えていくと思う”理由は、「働き始めたから・まだ働くつもりだから」(22件)が最も多く、自分の稼ぎで増やしていくことが最大の理由となっています。以下、「継続して貯めているため」(14件)、「増やしたいという気持ちがあるから」(10件)、「生活費などを節約しているから」(7件)、「ローンが終わるから・支出が減るから」(7件)などの順となっています。

表 7. 『夫に内緒の資産』が“減っていくと思う”理由 (自由回答: 件)

順位	減っていくと思う理由	件数
1	自分が仕事を辞めたから・働いていないから	13
2	子供の教育費などに回すから	11
3	生活費に充てているため	10
4	自分の小遣いとして少しずつ使っているから	8
	使う機会が増えているから	8
	その他	7

次いで、“減っていく+なくなると思う”理由をみると、「自分が仕事を辞めたから・働いていないから」(13件)と収入が減少することのほか、「子供の教育費などに回すから」(11件)、「生活費に充てているため」(10件)、「自

分の小遣いとして少しづつ使っているから」(8件)、「使う機会が増えているから」(8件)といったさまざまな出費が原因とされています。

表 8. 『夫に内緒の資産』が“変わらないと思う”理由 (自由回答: 件)

順位	変わらないと思う理由	件数
1	収入の増減の予定がないため	16
2	増やす余裕がないから	13
3	特に使う予定がないから	9
4	貯めた分だけ使っているから	6
	増やす気がないから・手を付けないつもりだから	6
6	金利が低いから	3
	その他	6

“変わらないと思う”理由は、「収入の増減の予定がないため」(16件)、「増やす余裕がないから」(13件)、「特に使う予定がないから」(9件)、「貯めた分だけ使っているから」(6件)、「増やす気がないから・手を付けないつもりだから」(6件)といった結果になっています。

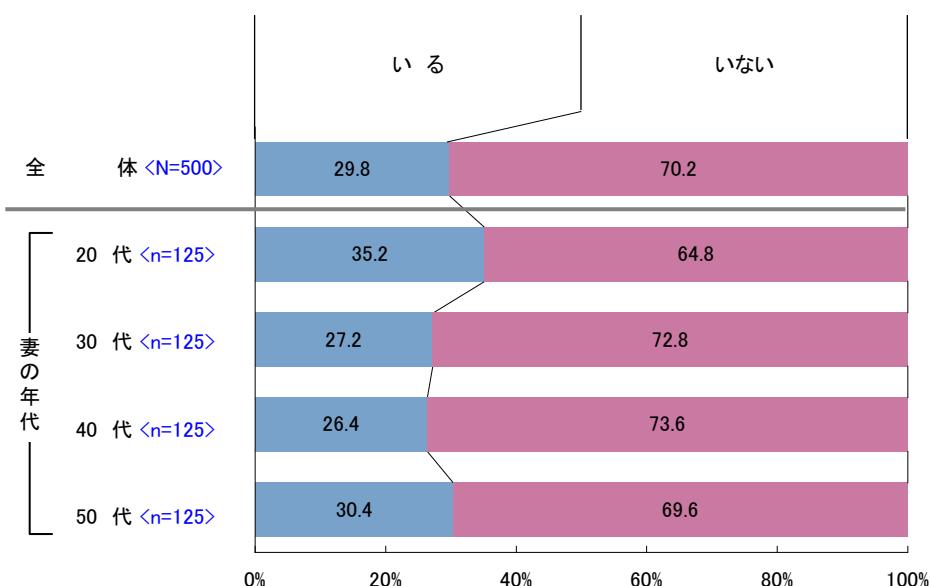
IV 「おもてなし」したい人

1. 現在、心をこめて「おもてなし」したいと思っている人はいるか

「おもてなし」したい人が「いる」人は約3割(29.8%)。

◆「おもてなし」したい人は、「親」が1位、2位を占めているが、「自分の親」(64.4%)の方が「夫の親」(41.6%)よりもかなり多い。以下、「自分の友人」(30.9%)、「自分の祖父母」(14.8%)、「夫の祖父母」(10.7%)、「夫の友人」(8.1%)、「夫の上司・同僚・部下」(6.7%)などの順。

図 19. 現在、心をこめて「おもてなし」したいと思っている人はいるか

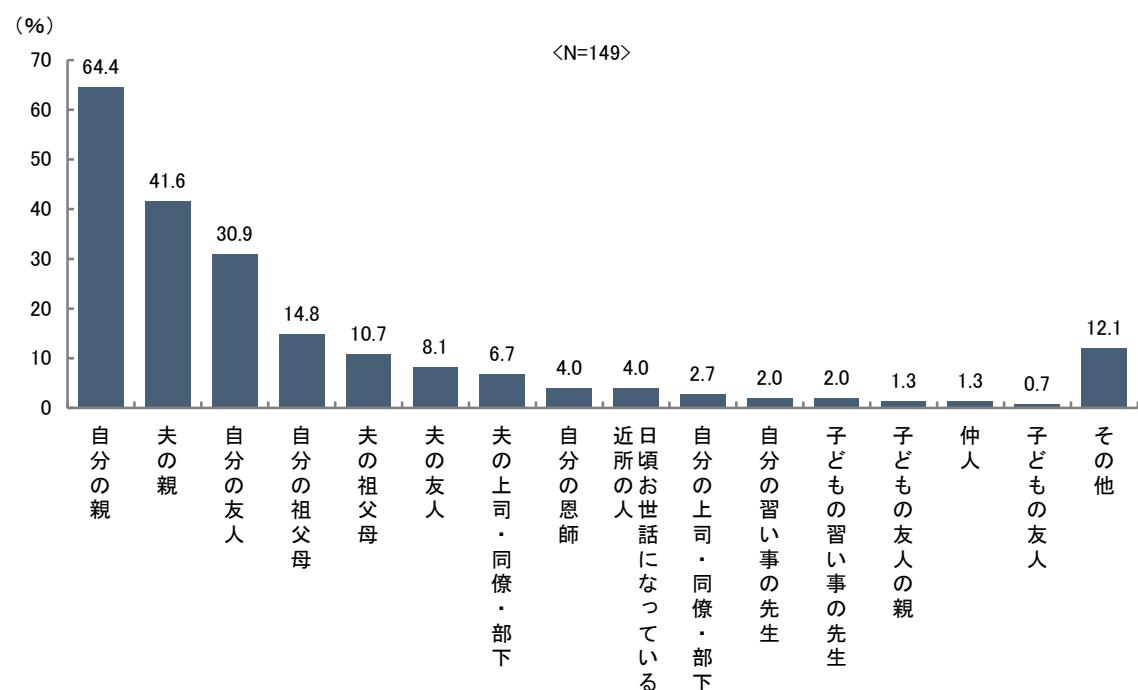


2020年に東京オリンピックが開催されることが決まり、東京のプレゼンテーションで「おもてなし」というフレーズが話題となりました。

そこで、現在、心をこめて「おもてなし」したいと思っている人はいるかどうかを聞いたところ、「いる」という人は約3割(29.8%)となっています。

- ・妻の年代別にみると、「いる」割合が最も高いのは《20代》(35.2%)となっています。

図 20. 「おもてなし」したいと思っている人（複数回答）



妻の年代	20代 <n=44>	75.0	52.3	38.6	29.5	25.0	15.9	11.4	9.1	6.8	2.3	2.3	2.3	-	-	-	9.1
	30代 <n=34>	70.6	47.1	14.7	20.6	8.8	2.9	5.9	-	2.9	-	2.9	-	2.9	-	-	11.8
	40代 <n=33>	66.7	42.4	30.3	6.1	3.0	9.1	6.1	6.1	6.1	6.1	3.0	6.1	3.0	6.1	3.0	9.1
	50代 <n=38>	44.7	23.7	36.8	-	2.6	2.6	2.6	-	-	2.6	-	-	-	-	-	18.4

では、その「おもてなし」したいと思っている人は誰でしょうか。

「自分の親」(64.4%) が最も多く、次いで「夫の親」(41.6%) と、“親”が1位、2位を占めていますが、「自分の親」の方が「夫の親」よりもかなり高い割合となっています。以下、「自分の友人」(30.9%)、「自分の祖父母」(14.8%)、「夫の祖父母」(10.7%)、「夫の友人」(8.1%)、「夫の上司・同僚・部下」(6.7%) などの順となっています。

- ・妻の年代別にみると、「自分の親」や「夫の親」は若い人ほど多くあげており、「自分の親」は《20代》(75.0%)、《30代》(70.6%) では7割台なのに対し、《50代》(44.7%) では4割台、「夫の親」は《20代》(52.3%) では5割台なのに対し、《50代》(23.7%) では2割台と大きな差があります。また、「自分の祖父母」は《20代》(29.5%) と《30代》(20.6%)、「夫の祖父母」は《20代》(25.0%) で多くみられます。

2. どのように「おもてなし」したいか

「食事をふるまう、好きなものを作つてあげる」(59 件)が最も多く、以下「旅行や観光に連れて行つてあげる」(28 件)、「プレゼントを贈る」(12 件)、「家などに招きゆつたりと一緒に過ごす」(11 件)などの順。

表 9. どのように「おもてなし」したいか (自由回答 : 件)

順位		件数
1	食事をふるまう、好きなものを作つてあげる	59
2	旅行や観光に連れて行つてあげる	28
3	プレゼントを贈る	12
4	家などに招きゆつたりと一緒に過ごす	11
5	頻繁に会う、連絡をとる	7
	普段から感謝の気持ちをもつて接する	7
7	相手が喜ぶようなことをあげる	6
	相手を助ける、手伝う	6

「おもてなし」したい人が「いる」と答えた人（149 名）に、どのように「おもてなし」したいか自由回答で聞いてみたところ、「食事をふるまう、好きなものを作つてあげる」(59 件) が最も多く、以下「旅行や観光に連れて行つてあげる」(28 件)、「プレゼントを贈る」(12 件)、「家などに招きゆつたりと一緒に過ごす」(11 件)、「頻繁に会う、連絡をとる」(7 件)、「普段から感謝の気持ちをもつて接する」(7 件) などの順となっています。

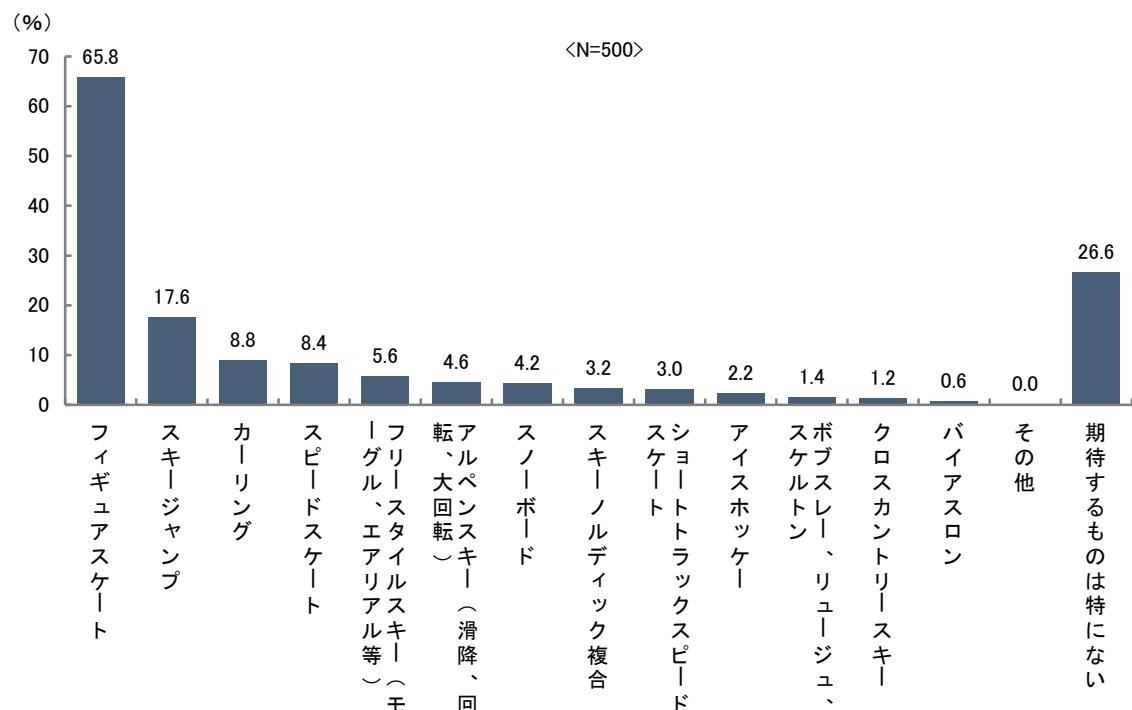
V

「ソチ五輪」で応援したい選手・チーム

1. 「ソチ五輪」で日本選手の活躍を期待する種目

「フィギュアスケート」(65.8%)が圧倒的に多く、以下「スキージャンプ」(17.6%)、「カーリング」(8.8%)、「スピードスケート」(8.4%)、「フリースタイルスキー(モーグル、エアリアル等)」(5.6%)などで日本選手の活躍を期待。

図 21 「ソチ五輪」で日本選手の活躍を期待する種目（複数回答）



妻の年代	20代 <n=125>	54.4	14.4	5.6	4.8	0.8	4.0	4.0	1.6	1.6	3.2	1.6	1.6	0.8	-	35.2
	30代 <n=125>	60.8	11.2	8.0	8.0	3.2	4.8	4.0	1.6	4.0	1.6	-	-	-	-	28.8
	40代 <n=125>	72.8	22.4	8.8	9.6	7.2	4.8	3.2	2.4	2.4	0.8	1.6	-	-	-	24.0
	50代 <n=125>	75.2	22.4	12.8	11.2	11.2	4.8	5.6	7.2	4.0	3.2	2.4	3.2	1.6	-	18.4

2014年2月7日に、いよいよ「ソチ五輪」がロシアで開幕しますが、日本選手の活躍を期待する種目は何かをみると、「フィギュアスケート」をほぼ3人に2人(65.8%)があげて圧倒的に多くなっています。以下、「スキージャンプ」(17.6%)、「カーリング」(8.8%)、「スピードスケート」(8.4%)、「フリースタイルスキー(モーグル、エアリアル等)」(5.6%)などの順となっています。

- ・妻の年代別にみると、1位の「フィギュアスケート」、2位の「スキージャンプ」ともに年齢が上がるほど高い割合を示しています。一方、若い人ほど「期待するものは特にない」とする割合が高く、《50代》(18.4%)では1割台ですが、《20代》(35.2%)では3割台となっています。

2. 「ソチ五輪」で応援したいと思う選手（チーム）

「浅田真央」(261 件)をはじめ、「羽生結弦」(39 件)、「高橋大輔」(32 件)などフィギュアスケートの選手を応援したいという声が多いのが目立つ。そのほか、スキージャンプの「高梨沙羅」(9 件)、モーグルの「上村愛子」(5 件)なども応援したい。

表 10. 「ソチ五輪」で応援したいと思う選手（チーム）（自由回答：件）

順位		件数
1	浅田真央	261
2	羽生結弦	39
3	高橋大輔	32
4	フィギュアスケート選手	11
5	高梨沙羅	9
6	安藤美姫	7
7	上村愛子	5
8	町田樹	3
	女子アイスホッケーチーム	3
	女子カーリングチーム	3
	スキージャンプ選手	3

「ソチ五輪」で応援したいと思う選手（チーム）を自由回答であげてもらったところ、「浅田真央」(261 件) が圧倒的に多くなっているほか、「羽生結弦」(39 件)、「高橋大輔」(32 件)、「フィギュアスケート選手」(11 件)、「安藤美姫」(7 件)、「町田樹」(3 件) とフィギュアスケートの選手を応援したいという声が多いのが目立ちます。そのほかでは、スキージャンプの「高梨沙羅」(9 件)、モーグルの「上村愛子」(5 件)、そして「女子アイスホッケーチーム」(3 件)、「女子カーリングチーム」(3 件)、「スキージャンプ選手」(3 件) といったチームや競技を応援したいとしています。